

「しなのきプラン29」

～長野市の子どもたちの「知・徳・体」を
バランスよく伸ばしていくために～

目指す人間像

グローバルな視野を持ちながら、ローカルにたくましく生きる自立した18歳



し 視野の広い思いやりの心を育みます
な 長野市（郷土）への誇りを育みます
の 伸びる力を伸ばします
き 希望・夢・志を育みます

「シナノキ」は長野市の木です。

葉＝A 学力
(知識・技能)

幹＝B 学力
(活用、思考力・判断力・表現力)

根＝C 学力
(意欲・態度)

実践力 絆力 自律力 未来力

平成28年4月

長野市教育委員会

目 次

〇まえがき

I	長野市の学力観・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
	子どもたちに育むべき力	
II	平成27年度全国学力・学習状況調査 概要・・・・・・・・	3
	1 教科に関する調査より	
	2 質問紙調査より	
III	課題と目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
	1 課題	
	2 目標	
	3 中長期計画	
IV	しなのきプラン29・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7
	1 しなのきプラン29の考え方	
	2 しなのきプラン29の重点	
	3 教育委員会の29の取組	
	4 学校の5つの取組	
	5 家庭の7つの取組	
V	各種調査の活用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	28
	資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	31
	用語解説	

参考文献

◎志水宏吉「学力を育てる」岩波新書 2005

ま え が き

長野市教育委員会では、平成24年4月に、「長野市教育振興基本計画」を策定いたしました。そして、この計画の推進にあたり、本市の目標とする人間像として、「グローバルな視野を持ちながら、ローカルにたくましく生きる力を身につけている、自立した18歳の青年」を描き、それに向かう具体的な学力向上策を検討してまいりました。これが、今年度新たに策定しました「しなのきプラン29」であります。

本プランでは、「長野市教育の基本理念」に基づいて、本市の学力を定義し、文部科学省による全国学力・学習状況調査の「教科に関する調査」のような数値に表される学力をA学力（知識・技能）、B学力（活用、思考力・判断力・表現力）とし、一方で、意欲や態度を表す力をC学力と考えました。特に、C学力を、本市として大切にしたい資質・能力とし、これらを数値化することにより、検証しやすくしたことが特徴です。

本市の学力の状況は、特に中学生の活用する力や実践力に課題があることが、各種調査により明らかになってきました。そこで、「しなのきプラン29」では、「教員の授業力向上と日常の授業改善」「児童生徒の基本的な生活習慣の確立と家庭学習の改善」「幼保小中高の円滑な接続」の3点を重点取組事項とし、新たな事業も含め29の具体プランを計画いたしました。

本プランは、平成27年4月から平成30年3月までの3カ年の取組であり、その後、3年毎に見直しを行い、平成35年度には、大きな成果につながることを目指すものであります。これは、平成27年度に小学校へ入学した1年生が、中学校を卒業するときに確かな力をつけていることを期待するものです。

市民の皆様には、この計画の推進に向けて、まずは本プランの内容を十分ご理解いただきたく存じます。そして、家庭、地域、学校と市教育委員会が心をひとつにして、プランの推進にあたり、長野市教育の基本理念にある「明日を拓く深く豊かな人間性」の実現につながることを強く願う次第です。

平成27年4月

長野市教育委員会

I 長野市の学力観

子どもたちに育むべき力

グローバル社会、高度情報化社会、少子高齢化・人口減少社会の到来とともに、長野市でも、経済格差の拡大や核家族化、地域コミュニティの崩壊、子育ての孤立化、価値観の多様化等、教育を取り巻く環境は大きく変化してきています。

長野市で生まれ、育ち、学び、成長し続ける子どもたちに、価値ある体験や学習を通じて、激動の時代を生き抜くための確かな「生きる力」を育むことが、いっそう重要な時代になって参りました。そのため、子どもの育ちや学びの連続性に着目し、「グローバルな視野を持って、地域に根差し、未来の地域社会づくりに参画・貢献できる力」を、一貫した教育の体系性、系統性の中で育てていく必要があります。

あわせて、子どもの乳幼児期、学童期、青年期のそれぞれに関わる大人たちが、社会への出口である18歳の、目指すべき姿を共有し、責任を果たしていくことが大切です。

人口の東京一極集中は、限界を迎えています。これまでの教育の枠組みを転換し、21世紀型のグローバルな視野を持って、地域に根差し、未来の地域社会づくりに参画・貢献できる人材の養成をしていかなければなりません。その意味で、長野市の教育が果たす役割は、非常に大きいと考えます。0歳から18歳までの教育という縦系と、幼保園・学校、家庭、地域、行政という横系をしっかりと編みながら、子どもたちの生涯学習の基礎・基本を培い、彼らの将来、そして未来の長野市を織り上げていきたいと考えます。

グローバルな視野を持ちながら、ローカルにたくましく生きる自立した18歳

◎青年期 (16歳～18歳) 【高校】	国家及び社会の 形成者として必要 な資質を養う	専門的な知識・技能の習得 広く深い理解力と健全な判断力の育成 社会の発展に寄与する態度の育成
◎学童期 (13歳～15歳) 【中学校】	知・徳・体の バランスのとれた 「生きる力」 を育む	確かな学力の育成 ・基礎的な知識・技能 ・知識技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力 ・学習に取り組む意欲 豊かな人間性の育成 ・自らを律しつつ、他人と協調する心 ・他人を思いやる心や感動する心 健康・体力の育成
◎学童期 (7歳～12歳) 【小学校】		
◎乳幼児期 (0歳～6歳) 【保育所】 【認定こども園】 【幼稚園】	生涯にわたる人格形 成の基礎を培う 学びの基礎(3～6歳) 生きる力の基礎 (0～2歳)	「遊び」や「生活」を通しての学びの基礎力の育成 ・学びの「自立」【興味・関心・意欲】 ・生活上の「自立」【基本的生活習慣の確立、 自然・人・社会と関わる力】 ・精神的な「自立」【我慢する力、自己肯定感、自信】

厚生労働省「保育所保育指針」、文部科学省「幼稚園教育要領」「学習指導要領」「高等学校学習指導要領」より

この中で、学童期における「生きる力」は、知・徳・体を総合的に関連付けて、全ての教科や領域等を通して、子どもたちに身につけさせていくべきものであると考えます。

そのため、市教育委員会では、家庭、地域、学校が、子どもの「知・徳・体」をバランスよく伸ばし、キャリア発達を促しながら、子どもたちが成長していくための支援を行います。

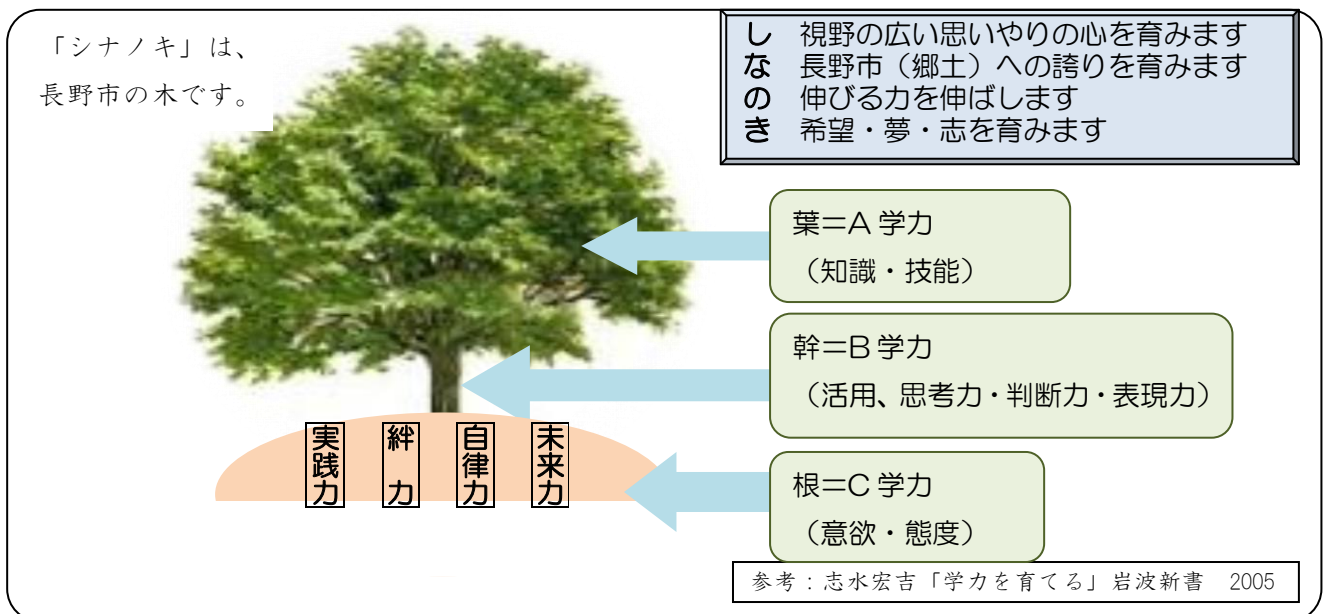
そして、長野市教育の基本理念を基盤に、自立した18歳を目指し、それまでに、グローバルな視野を持ちながら、ローカルにたくましく生きる力を身につけ、自らの進路を切り拓く力を高めていくために、子どもたちの学力を保障していきます。

そこで、学力を、次の三つに分類し、いわゆるテストで測れるA学力やB学力だけでなく、C学力も数値で測ることができるようになりました。長野市が大切にしたい主な資質・能力（C学力）は、以下の4つの力（未来力、自律力、絆力、実践力）であり、キャリア教育の基礎的・汎用的能力と重なる力と考えました。

	A 学力	B 学力	C 学力 【長野市が大切にしたい資質・能力】
要素	知識・技能	活用 思考力・判断力・表現力	意欲・態度
測定 方法	○全国学力・学習状況調査の A 問題 ○標準学力検査（NRT）	○全国学力・学習状況調査の B 問題 ○活用問題調査	○全国学力・学習状況調査の 質問紙調査

C 学力【長野市が大切にしたい主な資質・能力】		キャリア教育でつける力
未来力	将来の夢や目標と見通しを持ち、努力を継続できる力	キャリアプランニング能力
自律力	規範意識を持ち、自己をコントロールする力	自己理解・自己管理能力
絆力	他者を尊重し、積極的に人間関係を築こうとする力	人間関係形成・社会形成能力
実践力	獲得した知識・技能及び思考力・判断力・表現力を駆使して、粘り強く課題に対応し、行動する力	課題対応能力

市教育委員会が考える学力は、長野市の木である「シナノキ」をイメージしています。子どもたちを若木と捉え、C学力を木の根、B学力を木の幹、A学力を木の葉に象徴させています。



市教育委員会では、若木の成長に対して、適切な環境を提供し、根、幹、葉のバランスがよく、たくましい大木に、時間をかけて育てていきたいと考えます。

Ⅱ 平成27年度全国学力・学習状況調査 概要

平成27年4月21日(火)実施
 小学校6年生 3,300人 中学生 3,178人
 (実施した児童生徒数は、国語Aの人数を記載)

Ⅱ-1 教科に関する調査より

小学生

正答率(%)と全国比

中学生

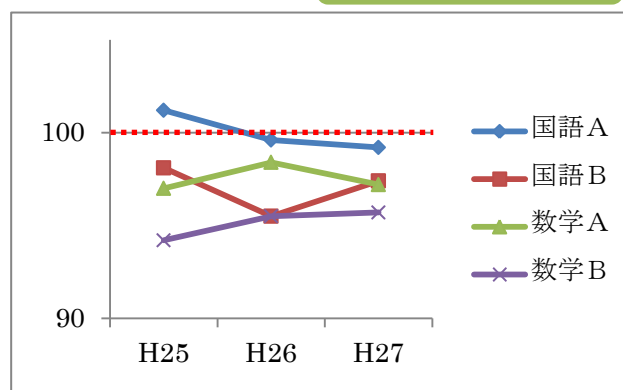
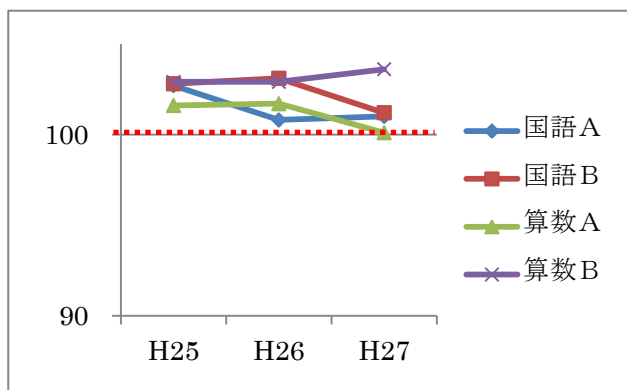
	長野市	長野県	全国	長野市 (全国比)
国語A	70.7	70.4	70.0	101.0
国語B	66.2	66.4	65.4	101.2
算数A	75.3	75.0	75.2	100.1
算数B	46.6	45.4	45.0	103.6
理科	62.6	61.3	60.8	103.0

	長野市	長野県	全国	長野市 (全国比)
国語A	75.2	76.2	75.8	99.2
国語B	64.1	65.0	65.8	97.4
数学A	62.6	63.5	64.4	97.2
数学B	39.8	40.6	41.6	95.7
理科	51.9	52.8	53.0	97.9

小学生(全国=100)

全国比の推移(国語、算数・数学)

中学生(全国=100)

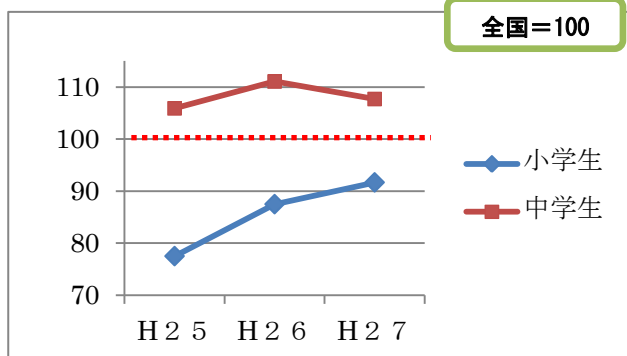


全調査で全国平均を上回り、おおむね良好な結果が得られました。
 国語A、算数Bで、回復傾向が見られます。

全調査で全国平均を下回りました。
 国語B、数学Bで回復傾向が見られます。

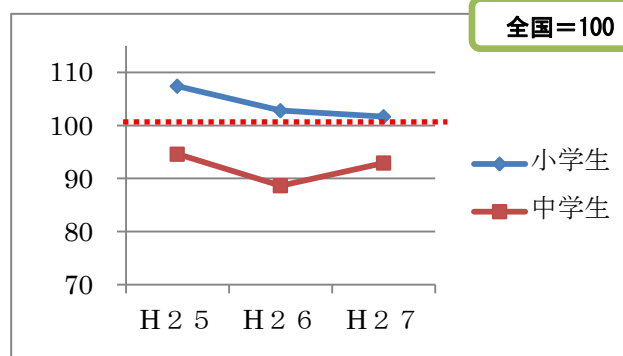
正答数の少ない児童生徒の割合と正答数の多い児童生徒の割合の推移

正答率40%以下の児童生徒の全国比



正答率40%以下の小学生の割合は、全国より少なく、中学生の割合は全国より多い状況です。中学生の割合は昨年より減少しています。

正答率80%以上の児童生徒の全国比



正答率80%以上の小学生の割合は、全国より多く、中学生の割合は、全国より少ない状況です。中学生の割合は昨年度より増加しています。

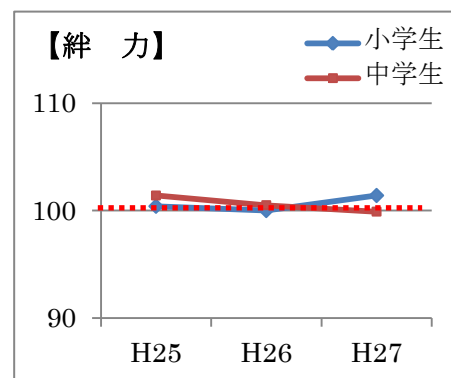
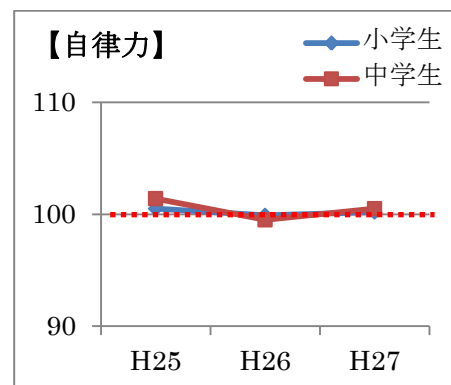
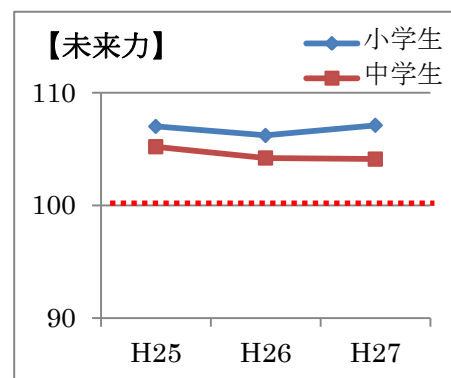
Ⅱ-2 質問紙調査より

上段：H27

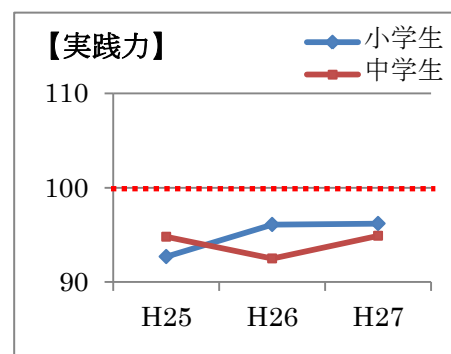
(下段)：H26

全国=100

【未来力】	質問項目	小学生	中学生
	将来の夢や目標を持っていますか。	98.5 (99.5)	98.2 (99.7)
	国語や算数(数学)、の授業で学習したことは、将来、社会に出たとき役立つと思いますか。	99.4 (99.5)	100.1 (96.9)
	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	101.0 (100.1)	99.5 (99.7)
	今住んでいる地域の行事に参加していますか。	129.4 (125.6)	118.8 (120.5)
	平均	107.1 (106.2)	104.2 (104.2)
【自律力】	質問項目	小学生	中学生
	学校のきまり(規則)を守っていますか。	99.3 (99.1)	100.5 (99.0)
	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。	101.3 (101.7)	99.9 (100.0)
	家で、学校の宿題をしていますか。	99.8 (98.9)	101.1 (99.4)
	平均	100.1 (99.9)	100.5 (99.5)
【絆力】	質問項目	小学生	中学生
	友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか。	100.3 (101.9)	100.8 (101.2)
	学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか。	101.2 (96.8)	98.5 (100.7)
	人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか。	101.0 (101.2)	100.4 (99.6)
	平均	100.8 (100)	99.9 (100.5)
【実践力】	質問項目	小学生	中学生
	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることができますか。	94.9 (95.5)	92.4 (88.1)
	「総合的な学習の時間」で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思いますか。	99.5 (100.4)	96.2 (92.8)
	「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。	85.4 (85.9)	78.3 (70.3)
	学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか。【難しいと思わない割合】	106.0 (102.6)	114.1 (118.3)
	学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができますと思いますか。	95.1 (96.4)	93.6 (92.7)
	平均	96.2 (96.1)	94.9 (92.5)



注) 絆力「友達に伝えたいことをうまく伝えることができますか。」の質問紙項目が変更になったため、3項目の平均値にしました。



Ⅲ 課題と目標

Ⅲ-1 課題

- A 正答数が少ない中学生の、基礎的な知識・技能を定着させること【学習事項の定着】
- B 中学生の「基礎的な知識・技能を活用した思考、判断、表現する力」を高めること【学習事項の定着】
- C 獲得した知識・技能及び思考力・判断力・表現力を駆使して、粘り強く課題に対応し、行動する力を育むこと【実践力】

Ⅲ-2 目標

効	全国学力・学習状況調査における課題 ⇒ 目標
A	(中学生) 正答率40%以下の生徒の割合 ⇒ 全国比100を下回る
B	(中学生)「活用力」(B問題) ⇒ 全国比100を上回る
C	(小中学生)「実践力」 ⇒ 全国比100を上回る

平成29年度の検証に向け、以下のような目標を設定しました。これは、全国を100とした場合の本市の数値です。数値は、子ども一人一人算出するのではなく、集団(学校、市全体)に適用するものと考えます。これまで、感覚的にとらえていたC学力の「意欲・態度」の部分について、客観的な数値で「見える」ようにすることで、市教育委員会や学校の取組の検証改善に活かすことができると考えます。

C学力の目標

長野市が大切にしたい主な資質・能力

全国=100

項目		H26 (全国比)	H27 (全国比)	H29 (全国比)
【未来力】 将来の夢や目標と見通しを持ち、努力を継続できる力	小学校	106.2	107.1	全国比を上回る
	中学校	104.2	104.2	
【自律力】 規範意識を持ち、自己をコントロールする力	小学校	99.9	100.1	
	中学校	99.5	100.5	
【絆力】 他者を尊重し、積極的に人間関係を築こうとする力	小学校	100.0	100.8	
	中学校	100.5	99.9	
【実践力】 獲得した知識・技能及び思考力・判断力・表現力を駆使して、粘り強く課題に対応し、行動する力	小学校	96.1	96.2	
	中学校	92.5	94.9	

A 学力・B 学力の目標

全国=100

項 目					H26(全国比)	H27(全国比)	H29 (全国比)	
【学習事項の定着】全国学力・学習状況調査	学力全体	平均正答率の全国比	小学校	国語	A	100.8	101.0	【小学校】現状を上回る 【中学校】全国比を上回る
				B	103.1	101.2		
			算数	A	101.7	100.1		
				B	102.9	103.6		
		中学校	国語	A	99.6	99.2		
				B	95.5	97.4		
			数学	A	97.0	97.2		
				B	95.5	95.7		
	学力分布	正答率40%以下の割合の全国比	小学校	国語	A	86.7	85.0	【小学校】現状を下回る 【中学校】全国比を下回る
				B	88.3	91.6		
			算数	A	87.2	89.3		
				B	86.8	93.2		
			中学校	国語	A	107.7	109.1	
					B	110.2	110.5	
		数学		A	106.7	109.0		
				B	114.9	106.5		
		無解答率	小学校	国語	A	86.9	100.0	
				B	87.0	90.2		
			算数	A	88.9	94.4		
				B	88.4	92.3		
	中学校		国語	A	109.7	107.7		
				B	114.4	122.7		
		数学	A	123.6	118.9			
			B	114.7	117.6			

Ⅲ-3 中長期計画

「しなのきプラン29」は、平成29年度までの3ヶ年の取組であり、その後、3年毎にプランの見直しを行います。平成27年度に小学校へ入学した子どもたちが、平成35年度の中学校卒業時には、大きな成果を得ていることを目指すものであり、学力向上を図るための29のプランについて重点的に行うものです。

年度	27	28	29	30	31	32	33	34	35
教育振興基本計画 (5ヵ年計画)	⇒ 第1期		第2期				第3期 ⇒		
しなのきプラン (3ヶ年×3計画)	プラン29(第1期)		プラン32(第2期)			プラン35(第3期)			
長野市モデル	開発		実証						

IV しなのきプラン29

IV-1 しなのきプラン29の考え方・視点

市教育委員会では、本市の学力の課題に対して、本プランで設定した目標を達成するために、5つの視点で学力向上に取り組みます。

- 1 児童生徒の「学びの質や広がり」の保障
- 2 児童生徒の「学びをつなぐ」学校種間（幼保小中高）の連携
- 3 児童生徒の「学びの基盤」整備（安全・安心な教育環境）
- 4 児童生徒の「学びを支える」家庭・地域との連携
- 5 児童生徒の「学びを導く」教員の力量向上

子どもたちが、学びを深め、成長していくということは、A 学力（知識・技能）をベースにして、B 学力（活用、思考力・判断力・表現力）を高めていくことの結果として、C 学力（意欲・態度）を向上させていくことであると考えます。他方、C 学力に働きかけ、B 学力を発揮する場を提供することによって、A 学力が高まることもあります。このように、上からと下からの両アプローチの適度なバランスが、子どもたちの成長に欠かせないと考えます。

両アプローチによって、学びを深め、成長させていくうえでの視点が、上記の5点と考えました。子どもたちを若木と捉えたときに、木の成長には、大地や肥料、水、そして太陽等周囲の環境が重要です。大地は、子どもたちの学びを支える家庭・地域であり、肥料は、学びの質や広がり、水は、学びの基盤と考えました。また、太陽は、子どもたちの学びを導く教員であり、若木がたくましい大木になるよう時間をかけて、育てていきたいと考えます。



イメージ図【しなのきプラン29の考え方・視点】

Ⅳ-2 しなのきプラン29の重点

若木を大木に育てるために、5つの視点から、以下の3つを重点として、29のプランを実施し、学力向上を図ります。

視点	しなのきプラン29の重点
2	I 児童生徒の学びをつなぐ「幼保小中高」の円滑な接続＝「長野市モデル」
3・4	II 児童生徒の基本的な生活習慣の確立と家庭学習の改善
1・5	III 教員の授業力向上と日常の授業改善

「長野市モデル」イメージ図 資料2 P.32 参照

Ⅳ-3 教育委員会の29の取組

教育委員会では、5つの視点・3つの重点から、以下の29のプランを実施します。

視点	番号	プラン名（各プランのH28の実施計画は次ページ以降を参照下さい）	重点
学びの質や 広がり の保障	1	グローバルな視野の育成	Ⅲ
	2	「地域を知り、地域に根ざした学習」の充実による地域貢献力の育成	
	3	キャリア発達を促す基礎的・汎用的能力の育成	
	4	豊かな体験活動等による創造力や感性の醸成	
	5	健康・体力の保持・向上	
	6	リテラシーの向上	
学びをつなぐ 学校種間の 連携 (幼保小中高)	7	幼保小の連携推進	I
	8	小中連携・一貫教育の推進	
	9	中高一貫教育の推進	
	10	キャリア教育を主軸とした小中高一貫教育カリキュラムの開発	
学びの基盤整備 (安全・安心な教育環境)	11	いじめのない安心な学校づくり	Ⅱ
	12	不登校の未然防止と不登校児童生徒へのきめ細かな支援	
	13	障害のある児童生徒への支援	
	14	社会的援助を必要とする児童生徒への支援	
	15	教育相談体制の充実	
	16	災害に強い学校環境の整備と交通安全・防犯教育の推進	
	17	外国人児童生徒への日本語・生活指導の充実	
学びを支える 家庭・地域 との連携	18	特色ある開かれた学校づくりへの支援	Ⅱ
	19	家庭との連携による基本的な生活習慣の確立	
	20	少子・人口減少社会に向けた活力ある学校づくり	
	21	家庭や地域におけるコミュニケーションの充実	
	22	学校、家庭、地域をつなぐ情報の発信と共有	
学びを導く 教員の力量向上	23	子どもと向き合う時間の確保・充実を図るための業務改善	Ⅲ
	24	授業改善のための各種調査の活用	
	25	授業改善のためのしなのき授業スタンダードの普及	
	26	各校の授業研究組織力の向上	
	27	教員の授業力の向上	
	28	授業改善のための情報発信と支援	
	29	「各学校の取組5」への支援	

IV-3-1 児童生徒の「学びの質や広がり」の保障

教育振興計画
1-2、4-1、4-2

伸びる力をさらに伸ばすために、「課題探究型の学習」（生活科、総合的な学習の時間、特別活動等）を充実させ、本市の課題である実践力を育成します。

◆… H28 新規事業⇒新 H28 拡大事業⇒拡 H28 継続事業⇒継

	プラン	内容	◆
1	<p>「<u>グローバルな視野の育成</u>」 今日的課題について、グローバルな視野から、自らの問題として考える力を育成します。</p> <p>※₁ 環境部との連携 ※₂ 市民生活部との連携 ※₃ 文化スポーツ振興部との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・姉妹都市（クリアウォーター市）、友好都市（石家荘市）派遣事業（交換学生、交換教師の相互派遣） ・一校一國運動支援事業 	継
		<ul style="list-style-type: none"> ・小学生との国際交流プログラム（G7交通大臣会合）（湯谷、長沼、芋井、篠ノ井西、寺尾、戸隠） 	新
		<ul style="list-style-type: none"> ・国際理解教育推進事業（ALT 配置（13 人）） 	継
		<ul style="list-style-type: none"> ・環境教育の推進（環境子どもサミットへの参加）※₁ 	継
		<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育研究指定校（全校）による研究推進 	継
		<ul style="list-style-type: none"> ・「<u>人権を尊重し合う市民のつどい</u>」（発表と表彰）※₂ 人権作文、標語、ポスターコンクール 	新
		<ul style="list-style-type: none"> ・子ども人権教室（3 教室）運営 ・学校人権教育振興補助金 	継
2	<p>「<u>『地域を知り、地域に根ざした学習』の充実による地域貢献力の育成</u>」 本市の魅力度を再認識する機会を提供し、地域への誇り・愛着の醸成を図ります。</p> <p>※₁ 企画政策部との連携 ※₂ 家庭・地域学びの課 ※₃ 保健福祉部との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ながのシティプロモーション実行委員会による地域の魅力リーフレットの作成配布 ※₁ 	継
		<ul style="list-style-type: none"> ・子ども版ながの検定（仮称）の実施への協力※₁ ・あるあるドリル作成への協力・啓発※₁ 	継
		<ul style="list-style-type: none"> ・小学校高学年と中学生、高校生の有志による「地域発リーダーズながの」の実施 	継
		<ul style="list-style-type: none"> ・福祉教育の充実※₃、ボランティア活動の情報提供※₂ サマーチャレンジボランティア（社会福祉協議会） 	継
		<ul style="list-style-type: none"> ・理科教育センター学習（小学 4 年、6 年） 	継
		<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み小学生自由研究お助け教室（上下水道局） 	継
		3	<p>「<u>キャリア発達を促す基礎的・汎用的能力の育成</u>」 キャリア教育の仕組みを構築することにより、社会的・職業的自立を目指し、必要な基盤となる能力や態度を育てます。</p> <p>※₁ 商工観光部との連携 ※₂ 産業振興部との連携 ◎資料 8 P.44 参照</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・長野市キャリア教育ガイドラインの更新・周知◎ 	継		
<ul style="list-style-type: none"> ・職業体験学習のための体験受入協力事業所紹介と情報の共有（ポータルサイト、おしごとながの等） 	継		
<ul style="list-style-type: none"> ・「長野市モデル研究委員会」による幼保小中高のつながりを意識したキャリア教育カリキュラムの作成と実践研究の推進 	継		
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校高学年と中学生、高校生の有志による「地域発リーダーズながの」の実施（再掲） 	継		
<ul style="list-style-type: none"> ・市立長野高へのキャリアコンサルタント派遣※₁ 	継		
	<ul style="list-style-type: none"> ・出前産業講座実施事業※₂ 	新	

◎生活科、総合的な学習の時間、特別活動の充実
道徳の教科化に向けて

4	<p><u>「豊かな体験活動等による創造力や感性の醸成」</u></p> <p>多様な体験ができる機会と活動・発表の場の提供を行い、未来の文化芸術の担い手を育成するとともに、豊かな感性を育みます。</p> <p>※₁家庭・地域学びの課 ※₂文化スポーツ振興部との連携 ※₃都市整備部との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会サミットの開催 ・図書館基本計画の推進 ・第二次子ども読書活動推進計画の推進（読書環境、図書館教育の充実、「おひざで絵本」ブックスタート事業・ボランティアによる読み聞かせの実施・読み聞かせボランティアの育成）※₁ ・学校図書館法改正に伴う学校司書のあり方の検討 ・学校図書図書標準の達成 ・自然体験活動、キャリア教育を大切にした校外教育活動の推進（小学校校外学習あり方検討委員会報告書） ・校外教育活動振興補助金（キャンプ・登山・スキー・スケート・社会見学等） ・青少年健全育成作品コンクール募集※₁ ・子ども会リーダー研修会開催※₁ ・シニアリーダー地区派遣※₁ ・子どもキャンプ開催※₁ ・長野わくわく体験事業の推進※₁ ・児童合唱団、ジュニアオーケストラ、ジュニアコーラス等への支援・補助※₂ ・街角に芸術と音楽のあるまちづくり推進※₂ ・少年科学センター、小田切練成センターの利活用※₁ ・芸術鑑賞音楽会、合同音楽会、連合音楽会、吹奏楽祭、学童書道大会への支援・補助 ・大岡農村文化交流センター山村留学事業 ・（仮称）「学校花いっぱい運動」への参加※₃ 	<p>◎生活科、総合的な学習の時間、特別活動の充実</p> <p>道徳の教科化に向けて</p>	<p>継</p> <p>継</p> <p>継</p> <p>継</p> <p>継</p> <p>継</p> <p>継</p> <p>新</p>		
	5	<p><u>「健康・体力の保持・向上」</u></p> <p>生きる力の基盤となる、たくましく生きる健康・体力を育みます。</p> <p>※₁こども未来部との連携 ※₂保健所健康課との連携 ※₃保健給食課</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運動と遊びのプログラムの普及推進※₁ ・教育センター「学校体育・学校保健研究委員会」による体力向上・学校保健の研究推進（全国体力・運動能力調査の分析） ・中学校総合体育競技大会出場補助金 ・各種健康診断の実施※_{2,3} ・保健師、管理栄養士等による小中高校への健康に関する出前講座※₂ ・アレルギー対応食実施に向けた準備（基本方針、マニュアルの周知）※₃ ・食育の推進（食に関する指導の全体計画、学校農園等による食農体験の充実） ・給食センター栄養士の学校訪問※₃ ・「平成28年度学校給食レシピカレンダー」の作成※₃ 		<p>継</p> <p>継</p> <p>継</p> <p>継</p> <p>継</p> <p>新</p> <p>継</p> <p>新</p>	
		6	<p><u>「リテラシーの向上」</u></p> <p>自ら必要な情報を集め、選択・活用し、課題を解決していく力（リテラシー）を高めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育情報化推進本部会議（年2回） ・ICT機器の整備とICTを活用した授業づくりの研究 ・タブレット端末の有効活用（集中管理と貸出） ・情報モラル教育の推進（授業支援、講演会への協力、実態調査の実施、教職員研修会の開催等） ・情報処理推進機構（IPA）による情報モラル講座の実施 ・メディアコーディネーターによる授業支援 ・パソコン119による機器の保守と操作支援 		<p>継</p> <p>継</p> <p>新</p> <p>継</p> <p>新</p> <p>継</p>

**IV-3-2 児童生徒の「学びをつなぐ」
学校種間（幼保小中高）の連携**

長野市モデル

教育振興計画 1-2

18歳の自立を見据えて、小1プロブレムや中1ギャップ等に対応し、幼保小中高のスムーズな接続のための「長野市モデル」を確立します。

乳幼児期における「学びの基礎力育成」のための遊びの充実をふまえて、キャリア教育を主軸とした一貫教育カリキュラムを構築・実践し、進路を切り拓く力を育成します。

	プラン	内容	◆
7	<p><u>「幼保小の連携推進」</u></p> <p>乳幼児期から学童期への円滑な接続を行い、小1プロブレムにも対応します。</p> <p>※こども未来部との連携</p> <p>◎資料 4.5 P.35～40 参照</p>	<p>・「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の策定^{※◎}</p>	新
		<p>・運動と遊びのプログラムの普及推進（再掲）[※]</p>	継
		<p>・幼保小連携会議の実施（7支会）[※]</p> <p>接続期（アプローチ・スタート）カリキュラム作成 幼保からの支援情報の確実な引継ぎ[※] アプローチカリキュラム（幼保）、スタートカリキュラム（小学校）の実践[※]</p>	継
8	<p><u>「小中連携・一貫教育の推進」</u></p> <p>モデル中学校区による活力ある小中学校づくりを推進し、中1ギャップの緩和を図ります。</p> <p>◎資料6 P.41 参照</p>	<p>・地域発 活力ある学校づくり推進事業（11 中学校区）◎</p> <p>【事業のねらい】 少子・人口減少社会に対応した「活力ある学校づくり」を推進し、児童生徒の集団で学び合える豊かな教育環境の構築と学校種間の連携による学力向上</p> <p>【小中連携のタイプ】 ○市街地（完結ネットワーク型、複線ネットワーク型） ○中山間地（幼保小中高連携型、小中分離型、小中併設型）</p> <p>【事業内容】 連携推進ディレクター（8名）を派遣し、各中学校区の小中連携、小中一貫教育を推進</p>	拡
		<p>・「活力ある学校づくり検討委員会」の設置</p>	新
		<p>・小中連携の推進（校長会：教育課程研究協議会の小中同日開催、小中人事交流、小中連携日等の設定）</p>	継
9	<p><u>「中高一貫教育の推進」</u></p> <p>学童期から青年期への円滑な接続を行い、高1クライシスにも対応します。</p> <p>◎資料7 P.42,43 参照</p>	<p>・市立長野中学校（中高一貫教育校）の開校準備（学校説明会、校舎改築、入学者選抜適性検査等）</p> <p>・教育計画にもとづいた指導計画の作成◎</p> <p>「総合的な学習の時間」と「探究基礎」を活用し、地域に根ざしたグローバルな視野をもつための探究学習を行います。（（仮称）翼プロジェクト）</p>	新
10	<p><u>「キャリア教育を主軸とした小中高一貫教育カリキュラムの開発」</u></p> <p>小中高の一貫したカリキュラムを作成し、各学校へ還元します。</p>	<p>・小中高連携推進室の設置</p>	新
		<p>・「長野市モデル研究委員会」による探究学習のモデルカリキュラムの作成</p>	新
		<p>・「長野市モデル」を市内小中学校へ還元するための研究推進</p>	新

IV-3-3 児童生徒の「学びの基盤」整備（安全・安心な教育環境）

教育振興計画
1-3、1-4

一人ひとりを大切にした教育を推進し、多様な環境に置かれたすべての子どもたちが、安心して学習に向かえるような基盤を整備することにより、学力の下支えを図ります。

	プラン	内容	◆
11	<u>「いじめのない安心な学校づくり」</u> 学校、家庭、地域の連携のもと市民総ぐるみで、いじめの未然防止や早期発見・早期解消に取り組みます。 ◎資料9 P.45 参照	・長野市「いじめ防止等のための基本的な方針」を基にした対応（いじめ問題対策連絡協議会、いじめ問題調査・解決チームの設置と連携した対応）◎	継
		・いじめの状況調査（年4回）	継
		・いじめ防止のための研修実施	継
		・（市）スクールソーシャルワーカー（2名）の配置	拡
12	<u>「不登校の未然防止と不登校児童生徒へのきめ細かな支援」</u> すべての児童生徒の「笑顔で登校」を目指し、不登校の未然防止や早期発見・早期対応に取り組むとともに、不登校児童生徒の学校復帰や社会的自立に向けた支援を充実します。 ◎資料10 P.46,47 参照	・「しなのき児童生徒意識アンケート」の実施（年2回） 不登校対策委員会登校支援部会による研究と普及	新
		・学校訪問相談担当指導主事の配置（6名）◎ 不登校等支援を必要とする児童生徒のアセスメントと支援のコーディネート	拡
		・不登校対策委員会の開催（年3回）	継
		・登校支援サポーターの配置（10名）	継
		・教育相談関係者合同研修会の開催（年3回）	継
		・登校支援コーディネーター研修会の実施（年3回）	継
		・中間教室の設置 →教育支援センターへの移行 三輪、東北、南部、かがやき 篠ノ井、ふれあい、犀南、松代 適応指導員9名	拡
＊メンタルフレンド、学習チューターの活用			
13	<u>「障害のある児童生徒への支援」</u> 一人一人の教育的ニーズに応じ、幼保小中が連携した支援を行い、障害のある幼児・児童生徒の能力と可能性を伸ばせる教育環境を目指します。 ※こども未来部との連携 ◎資料11 P.48 参照	・「さんさんプラン」の実施◎	継
		・幼保からの支援情報の確実な引継ぎ（再掲）※	継
		・（国補）発達障害支援アドバイザー事業の実施	継
		・教育支援委員会、学校訪問担当指導主事、就学相談担当指導主事による就学相談体制の充実	継
		・支援員、相談員の配置 特別支援教育支援員（115名）⇒児童生徒の学習を支援 特別支援教育巡回相談員（10名）⇒障害のある児童生徒に適した指導方法を担当教員へ助言	拡
・特別支援教育のあり方研究会（仮） （障害者差別解消法施行に伴う副学籍や就学相談のあり方）	新		
・発達支援あんしんネットワーク事業※	拡		

14	<p>「<u>社会的援助を必要とする児童生徒への支援</u>」</p> <p>家庭環境が教育格差につながらないよう、等しく教育を受けられる支援を行います。</p> <p>※₁総務課</p> <p>※₂こども未来部との連携</p> <p>※₃保健福祉部との連携</p>	・就学援助の実施（要保護、準要保護家庭への援助）※ ₁	継
		・奨学資金制度の実施	継
		・通学援助（路線バス、スクールバス、スクールタクシー、自転車等）	継
		・子どもの生活・学習支援事業※ ₂	新
		・生活困窮者学習支援事業※ ₂	新
15	<p>「<u>生徒指導・教育相談体制の充実</u>」</p> <p>相談窓口を設置し、子どもたちを見守り育てていく環境を目指します。</p> <p>※₁こども未来部との連携</p> <p>※₂家庭・地域学びの課</p> <p>◎資料 10 P.46,47 参照</p>	・学校と家庭を支える相談支援体制の充実◎	継
		① 窓口（来所）・電話相談担当指導主事の配置（2名）	拡
		② 学校訪問相談担当指導主事の配置（6名）（再掲）	
		③ （市）スクールソーシャルワーカーの配置（2名）（再掲）	
		④ （市）スクールカウンセラーの配置（1名）（再掲）	
		⑤ 登校支援サポーターの配置（10名）（再掲）	
		⑥ （県）スクールカウンセラーの活用	継
⑦ こども相談室※ ₁	継		
・少年育成センター事業※ ₂ （各種巡回指導、巡回指導・環境浄化活動関係者研修会の開催、生徒指導係・主事・学校少年育成委員会合同研修会の開催、少年相談連絡会等との連携 等）	継		
・「ひとりでなやまないで」ステッカー・マグネットの配布	継		
・児童生徒の健全育成に係る相互連携に関する協定（中央署、南署）	新		
16	<p>「<u>災害等に強い学校環境の整備と交通安全・防災教育の推進</u>」</p> <p>災害時等の危機管理体制の整備と、交通安全や防犯に対する教育を推進し、安全で安心な教育環境の構築を図ります。</p> <p>※₁総務課</p> <p>※₂企画政策部との連携</p>	・学校危機管理マニュアルの見直し支援	継
		・校舎等建物の耐震化事業の推進※ ₁	継
		・屋内運動場等の吊り天井等の非構造部材の耐震化の推進※ ₁	継
		・学校安全計画の見直し支援	継
		・危険箇所等安全マップの作成支援	継
		・学校見守り隊との連携による児童生徒の登下校安全確保	継
		・交通安全推進フェアの開催（2中学校区）※ ₂ 豊野西小、豊野東小→豊野中 寺尾小、東条小→松代中	拡
		・バスの乗り方教室の開催（8校）※ ₂	新
17	<p>「<u>外国人児童生徒への日本語・生活指導の充実</u>」</p> <p>日本語・生活指導の必要な児童生徒を支援します。</p> <p>※企画政策部との連携</p>	・日本語教室加配教員による支援体制の推進（8名）	継
		・日本語指導巡回指導員の配置（12名）	継
		・日本語指導運営協議会の開催（年4回） 連絡協議会の企画運営	継
		・日本語指導連絡協議会の開催（年4回）	継
		・長野市外国籍児童生徒学習交流会の開催※	継

**IV-3-4 児童生徒の「学びを支える」
家庭・地域との連携**

教育振興計画
2-1、2-2、3-1、3-2

家庭・地域と連携して、「基本的な生活習慣の確立」や「家庭・地域におけるコミュニケーションの充実」を図り、子どもの学びを支えます。

	プラン	内容	◆
18	<p><u>「特色ある開かれた学校づくりへの支援」</u> 地域性を活かした持続可能な長野市コミュニティスクールの推進支援を通して、子どもの学習支援を行い、開かれた学校づくりを進めます。</p> <p>※₁こども未来部との連携 ※₂家庭・地域学びの課 ◎資料 13 P.49</p>	<p>・長野市コミュニティスクール事業の推進（全校予定）◎ ～子どもの成長と豊かな学びを地域とともに支える仕組み～ （学校運営参画、学校支援、学校関係者評価） ① 運営や設立準備への情報提供、助言、研修 ② 運営補助 *放課後子ども総合プランとの連携強化※₁ *公民館活動と学校の連携※₂ *学習チューターによる学習支援（再掲）</p>	拡
		<p>・学校マイプラン推進事業補助金</p>	継
19	<p><u>「家庭との連携による基本的な生活習慣の確立」</u> 家庭の教育力向上を図り、子どもたちの学習習慣の確立や、充実した家庭学習を推進します。</p> <p>※長野市PTA 連合会との連携 ◎資料 12 P.48</p>	<p>・「しなのきプラン29」（家庭での7つの取組）の普及推進 *長野市PTA 連合会との懇談会開催※ （帰宅後の生活（睡眠時間、ネット、TV、ゲーム等）の生活リズムの見直し） *家庭学習充実プロジェクトの推進 *中学生の部活動の見直し（「長野県中学生期のスポーツ活動指針」の確実な実施）◎</p>	継 継 新 継
		<p>・「活力ある学校づくり検討委員会」の設置（再掲）</p>	新
20	<p><u>「少子・人口減少社会に向けた活力ある学校づくり」</u> 地域と共に、少子・人口減少社会に対応した学校づくりの方向性について検討します。</p>	<p>・地域発 活力ある学校づくり推進事業（11中学校区）の推進（再掲） 連携推進ディレクター（8名）による「地域発スクールモデル」の構築（再掲）</p>	拡
		<p>・自立した18才を育成するための「学校づくり」事業 城山小⇄西部中、戸隠小⇄戸隠中 信更小⇄信更中、若槻小⇄北部中</p>	新
21	<p><u>「家庭や地域におけるコミュニケーションの充実」</u> 各種団体との連携を図り、子どもたちの家庭や地域におけるコミュニケーションの啓発活動を行います。</p> <p>※₁こども未来部との連携 ※₂長野市PTA 連合会との連携 ※₃家庭・地域学びの課 ※₄文化スポーツ振興部との連携 ※₅保健給食課 ◎資料 14 P.50 参照</p>	<p>・全ての就学児童が放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うための放課後子ども総合プランの推進（遊び・学習・各種体験活動を通じて、ルールやマナーの習得、体力・創造力の向上）※₁</p>	拡
		<p>・「長野市大人と子どもの心得八か条」の普及※₂◎</p>	継
		<p>・家庭の教育力向上の促進※₃（家庭教育力向上研修会、7支会研修会、乳幼児を持つ保護者の「家庭の学び講座」）</p>	拡
		<p>・青少年育成環境整備事業の推進※₄ （青少年健全育成情報交換会、青少年健全育成フェスティバル）</p>	継
		<p>・総合型地域スポーツクラブへの支援※₄ （クラブ担当者連絡会の開催、活動場所の確保）</p>	継
<p>・青少年育成事業「大人の本気」（青年会議所）</p>	新		
<p>・「平成28年度学校給食レシピカレンダー」の作成（再掲）※₅</p>	新		
22	<p><u>「学校、家庭、地域をつなぐ情報の発信と共有」</u> 学校教育に係る情報を共有し、学校、家庭、地域の役割を明確にしながら、子どもたちの学力を高めます。</p>	<p>・教職員、保護者、児童生徒による学校評価の改善と推進</p>	継
		<p>・学校評議員とコミュニティスクール運営委員の連携推進</p>	継
		<p>・学校ホームページの自己評価チェックリストの活用</p>	継
		<p>・市、学校のホームページの充実による情報発信</p>	継
		<p>・長野市学校安全・安心ネットによるメール配信</p>	継
		<p>・危険箇所等の「安全マップ」の作成支援（再掲）</p>	継
<p>・「しなのきプラン29」の普及（家庭、地域、学校）</p>	継		

IV-3-5 児童生徒の「学びを導く」教員の力量向上

教育振興計画 1-1-1

日常の授業改善や教員の授業力向上、学校の授業研究組織力の向上を支援し、学校におけるOJT型授業研究を推進します。

	プラン	内容	◆	
23	<p><u>「子どもと向き合う時間の確保・充実を図るための業務改善」</u></p> <p>業務の精選、簡素化、効率化等により、教員の子どもと向き合う時間や、授業の充実を図る時間を確保します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各種調査の精選と簡素化 作品募集、行事参加依頼等の精選 学校（教員用）ポータルサイトの充実（様式集、授業ヒント等の掲載） 	継	
		<ul style="list-style-type: none"> 学校を支援する団体や人材、機会等の情報提供（生涯学習人材バンク、職場体験学習受入事業所、おしごとながの等）（再掲） 	継	
24	<p><u>「授業改善のための各種調査の活用」</u></p> <p>各種調査を実施し、授業改善に役立てます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力・学習状況調査の実施 小学校6年 中学校3年（国、算・数、質問紙） 経年分析調査 	継	
		<ul style="list-style-type: none"> 標準学力検査（NRT）の実施 小学校4・5・6年 中学校1年（国、社、算、理） 	拡	
		<ul style="list-style-type: none"> 活用問題調査の実施 中学校2年（国、社、数、理、英） 教育センター「活用問題検討委員会」による問題作成と作問研修 	拡	
25	<p><u>「授業改善のためのしなのき授業スタンダードの普及」</u></p> <p>（校内研究支援① 指導主事学校訪問）</p> <p>指導主事が積極的に学校訪問を行い、OJT型授業研究を推進します。県教育委員会指導主事と協働して訪問します。</p> <p>【しなのき授業スタンダード】 資料1 P.31 参照</p>	<p>授業支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 単発派遣型（授業＋授業研究会 初任研・5年研・10年研も含む） 複数主事派遣型①（教科指導＋特別支援教育、人権教育、キャリア教育、ICT活用） 複数主事派遣型②（複数教科一斉） 短期継続派遣型（学力分析＋教材開発＋指導案作成＋授業＋授業研究会 期間：1～2ヶ月） 通年派遣型（1年間継続の校内研究、教育課程研究、教科会） 学校連携派遣型（小中・小小連携・中学校区や支会単位の授業＋授業研究会等） 学校二一ズ対応型（校内研修とセット等学校の二一ズに対応） 	継	
		<p>校内研修支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種調査の分析研修、学力向上研修 各種教育研修（キャリア教育、特別支援教育、情報教育、学級づくり、人権教育等） 	継	
		<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導型授業支援 		
		<ul style="list-style-type: none"> 教育センター「しなのき授業研究委員会」の設置 	継	

26	<p><u>「各校の授業研究組織力の向上」</u> (校内研究支援②) 指導主事が、各支会の学力向上委員会との連携を図り、授業研究の組織力を強化・支援します。また、信州大学教育学部附属学校園との共同研究を行い、実践に生かします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自立した18才を育成するための「学校づくり」事業 城山小⇄西部中、戸隠小⇄戸隠中 信更小⇄信更中、若槻小⇄北部中 (再掲) 	新
		<ul style="list-style-type: none"> ・教育センター「しなのき授業研究委員会」による実践研究と、信州大学教育学部附属学校園との相互授業参観 	継
		<ul style="list-style-type: none"> ・支会の学力向上委員会への指導主事による支援 (再掲) (小中連携や、家庭学習と授業のつながりの研究推進) 	継
		<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上担当者会の実施 (年3回実施) 	拡
		<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上フォーラムの実施 (小中連携、家庭学習等をテーマにした実践発表や討論) ・信州大学教職大学院との連携 	新
27	<p><u>「教員の授業力の向上」</u> (教職員研修) 教育センターでは、教職員の研修体系に基づき、教職員の学び続ける意欲を高め、授業力向上を図ります。</p>	<p>(基本方針1) 教職員のキャリアステージに応じた専門性を高める研修 (基本方針2) 今日的な教育課題や多様なニーズに対応した研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初任研・10年研などの基礎的指導力を培うための経年研修 ・リーダー性の向上を図るためのミドルリーダー研修 ・学校運営の充実に向けた管理職研修 ・今日的な教育課題や多様なニーズに対応した研修 	継
		<ul style="list-style-type: none"> ・文科省の教科(学力)調査官、全国的に著名な大学教授等、一流の講師から学ぶ ・幼保小中高の円滑な接続について学ぶ ・講義に加え、演習、体験、グループ討議、経験年数の異なる教職員との交流等、多様で柔軟なスタイルで学ぶ 	
28	<p><u>「授業改善のための情報発信と支援」</u> 各種情報を積極的に配信するなど、ポータルサイトの充実を図り、教員の授業改善に役立てます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・しなのきプラン推進のための「しなのき通信」発行とホームページへの掲載 	継
		<ul style="list-style-type: none"> ・授業の動画や板書の写真等、優れた実践の紹介 	継
		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者向けリーフレットの作成・配布等による「しなのきプラン29」の普及(家庭、地域、学校)(再掲) 	継
		<ul style="list-style-type: none"> ・メディアコーディネーターによる授業支援(再掲) ・パソコン119による機器の保守と操作支援(再掲) 	継
29	<p><u>「『各学校の取組5』への支援」</u> 「学校の5つの取組」を支援し、授業改善や教員の授業力向上を推進します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校の5つの取組」の支援(指導主事訪問、研修会開催) ①基礎基本の定着 ②授業規律・学習規律の確立 ③授業とつながる家庭学習の充実 ④学力調査の活用 ⑤同僚性の向上 	継
		<ul style="list-style-type: none"> ・各校学力向上策のグランドデザインへの位置付け 	継

IV-4 学校の5つの取組

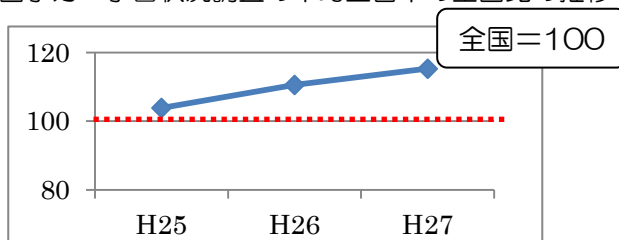
各学校は、「しなのきプラン29」に基づいて、自校のランドデザインや研究計画に学力向上施策を位置付け、授業改善を図ります。特に、以下の5つに重点をおきます。

- 1 基礎基本の定着
- 2 授業規律・学習規律の確立
- 3 授業とつながる家庭学習の充実
- 4 各種調査の活用
- 5 同僚性の向上

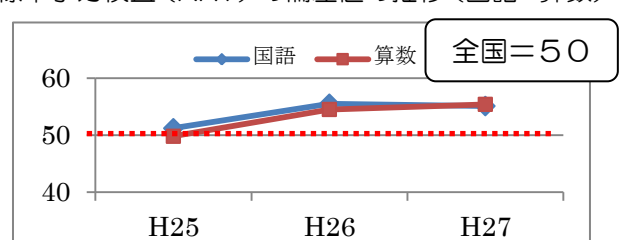
平成25～27年度までの国語A・B、算数・数学A・Bの4科目の平均正答率の値が、「上昇している、または安定して高い」学校群の中から、取組に特徴のある学校を6校抽出しました。学力向上に効果があったと考えられる取組について各校から聞きとり、NRTやQ-U、児童生徒質問紙調査から紹介します。

IV-4-1 A小学校 ～基礎基本の定着に取り組んだ学校～

全国学力・学習状況調査の平均正答率の全国比の推移

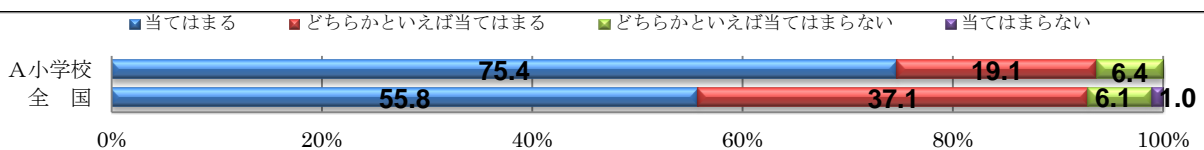


標準学力検査（NRT）の偏差値の推移（国語・算数）

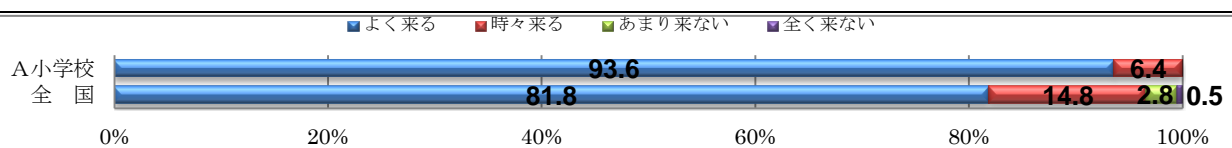


○平成27年度 児童質問紙調査結果（全国を3ポイント以上上回った項目）

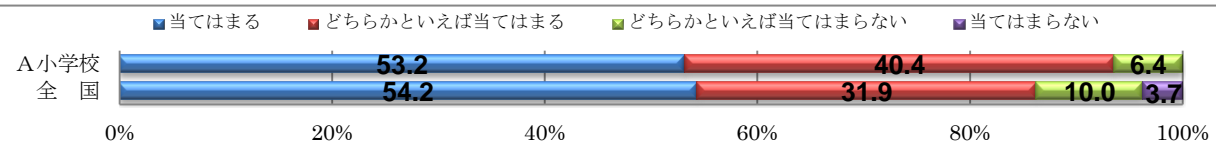
友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか。



家の人、授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか。



学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか。

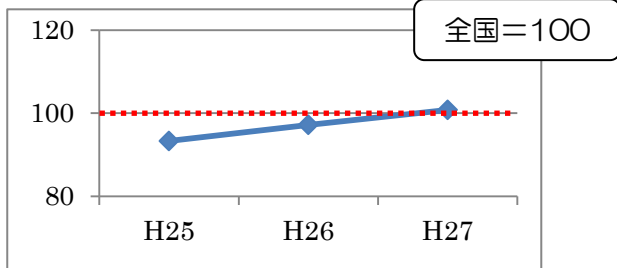


A小学校の取組のよさ

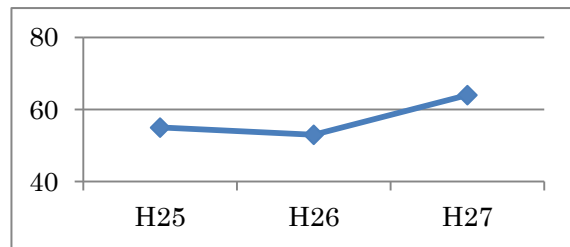
○NRT検査を活用し、知識・技能等の基礎的内容の剥落が見られる領域や単元に着目して、指導の問題点を明らかにし、その領域の補充（補完）指導のあり方や単元指導計画を見直し、日々の授業改善に活かしていること。

Ⅳ-4-2 B中学校 ～授業規律・学習規律の確立に力を入れた学校～

全国学力・学習状況調査の平均正答率の全国比の推移

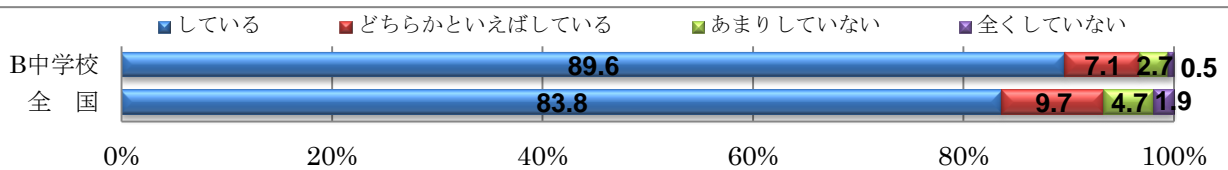


楽しい学校生活を送るためのアンケート (Q-U)
学級満足群の割合 (%) の推移

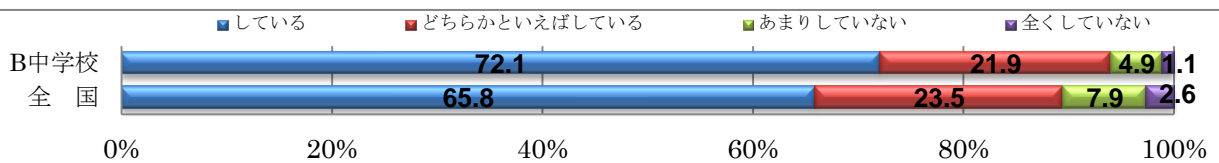


○ 平成 27 年度 生徒質問紙調査結果 (全国を3ポイント以上上回った項目)

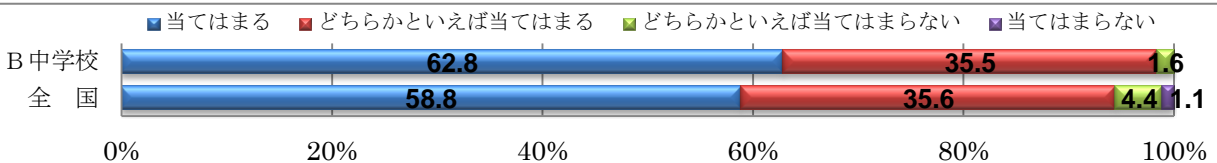
朝食を毎日食べていますか。



家で、学校の宿題をしていますか。



学校の規則を守っていますか。

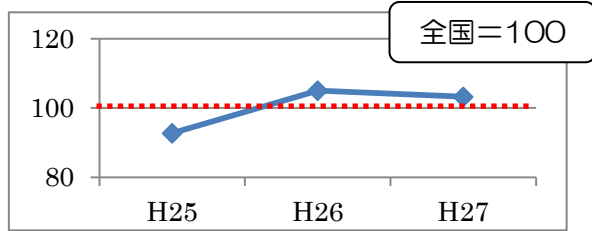


B中学校の取組のよさ

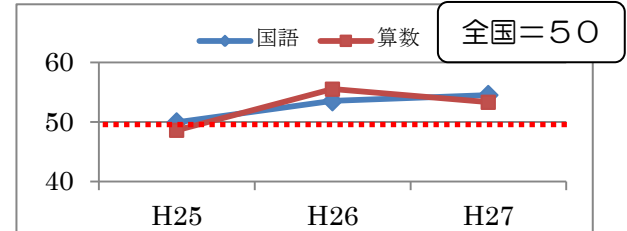
- 生徒・教師が一体となって、授業のチャイムスタートに取り組み、授業へ向かう雰囲気作りを進めたこと。
- 指導案に学習問題・学習課題、板書計画と1時間の終末、「書くこと・説明すること」の活動過程を明記し、端的な記述で「つけるべき力」の明確化を図ったこと。

Ⅳ-4-3 C小学校 ～学級運営の課題に組織的に対応した学校～

全国学力・学習状況調査の平均正答率の全国比の推移

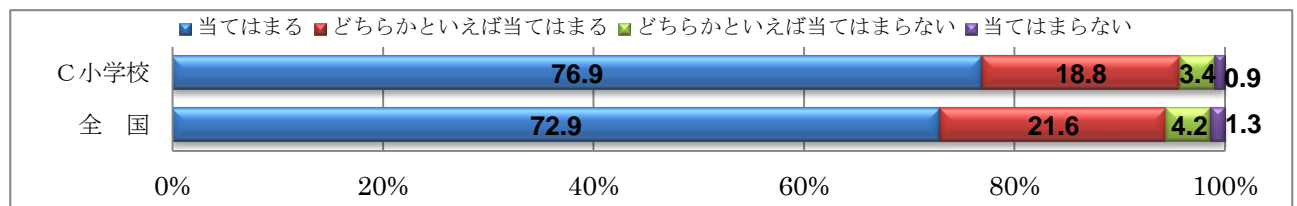


標準学力検査（NRT）の偏差値の推移（国語・算数）

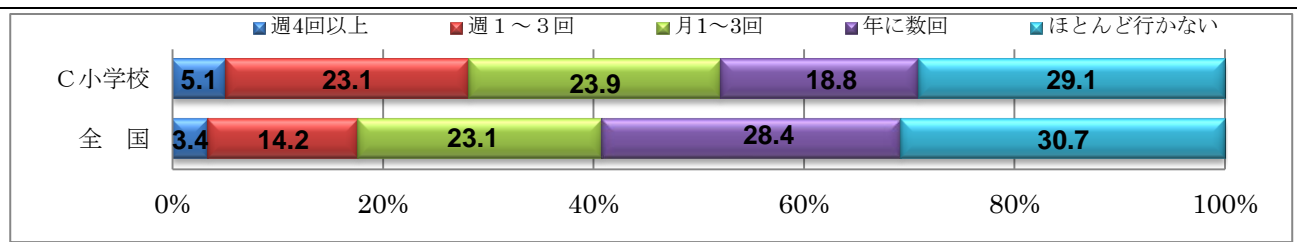


○平成27年度 児童質問紙調査結果（全国を3ポイント以上上回った項目）

ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。



昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか。

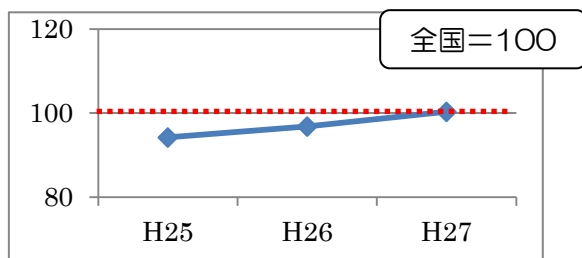


C小学校の取組の良さ

- 学力面で配慮を要する児童に対して、支援カードや個に応じた支援の場を準備したり、時間割の調整により、支援員の効果的な活用をしたりしていること。
- 特別な支援が必要な児童についての理解を深めるために、特別支援学校の教師を講師に招き、児童の「ものの見え方」等の研修を行い、配慮を要する児童への支援を改善していること。
- 課題を明確に設定するために、生活に関連した学習問題等を提示し、児童の興味をひかせる指導に取り組んでいること。

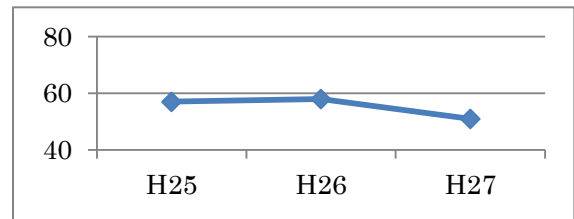
Ⅳ-4-4 D中学校 ～同僚性の向上を目指し校内研修を充実させた学校～

全国学力・学習状況調査の平均正答率の全国比の推移



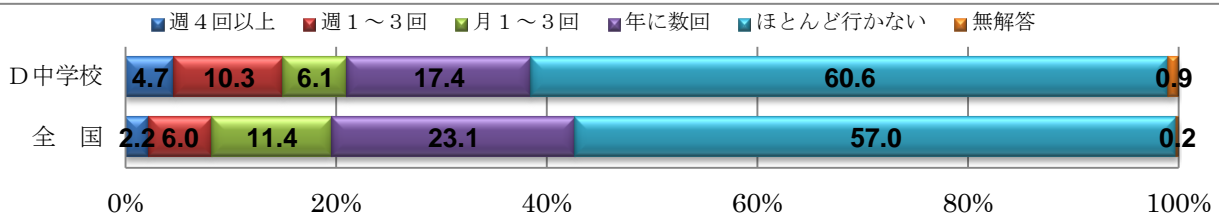
楽しい学校生活を送るためのアンケート (Q-U)

学級満足群の割合 (%) の推移

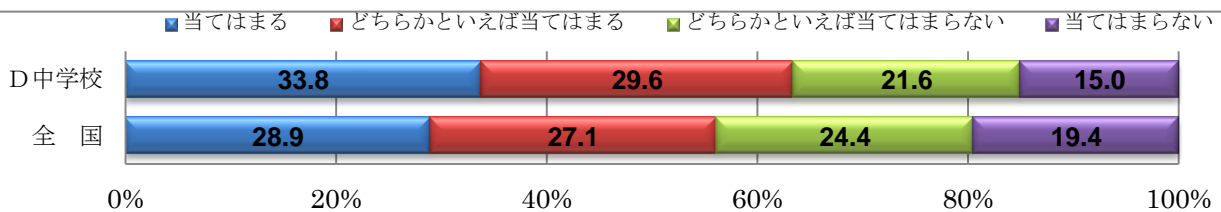


○ 平成 27 年度 生徒質問紙調査結果 (全国を3ポイント以上上回った項目)

昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか。



数学の勉強は好きですか。

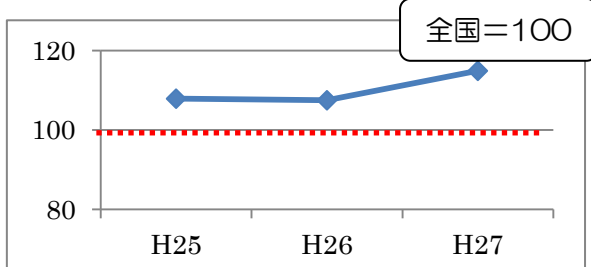


D中学校の取組のよさ

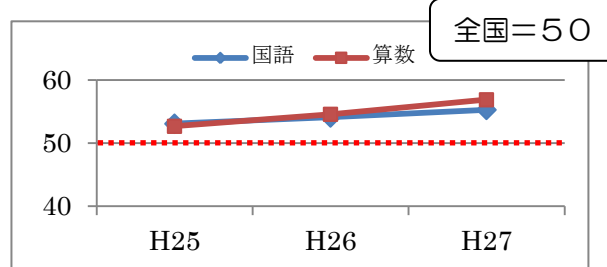
- 授業改善の方向を「問題解決型学習」とし、全員で取り組んでいること。
- 時間割を見直して、独自に補足的な学習の時間を生み出し取り組んでいること。
- 「学力の3層構造」「アクティブ・ラーニング」「総合的な学習の時間の生徒の変容」などを、概念図を示して教員間で重要事項を理解して取り組んでいること。
- 「学習問題」「学習課題」の明確な提示、ホワイトボードやタブレットを活用したグループ学習の位置付けなど、基本的な授業を大切にしていること。

Ⅳ-4-5 E小学校 ～児童に寄り添った評価に取り組んだ学校～

全国学力・学習状況調査の平均正答率の全国比の推移

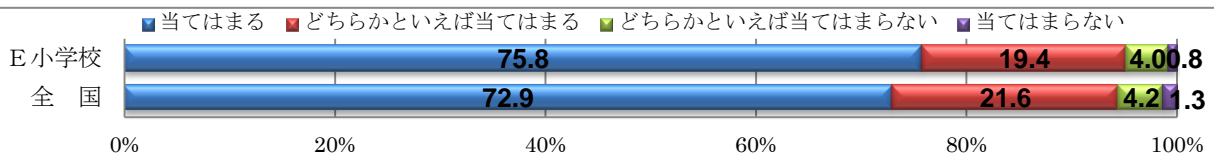


標準学力検査 (NRT) の偏差値の推移 (国語・算数)

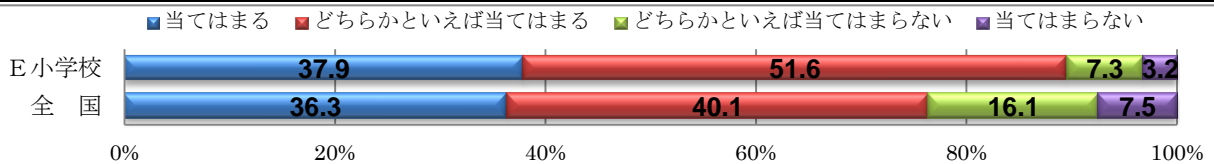


○ 平成 27 年度 児童質問紙調査結果 (全国を3ポイント以上上回った項目)

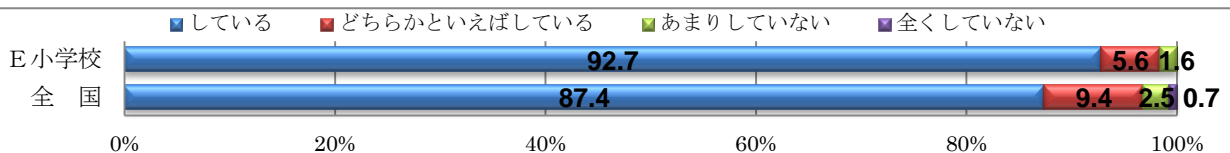
ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。



自分には、よいところがあると思いますか。



家で、学校の宿題をしていますか。

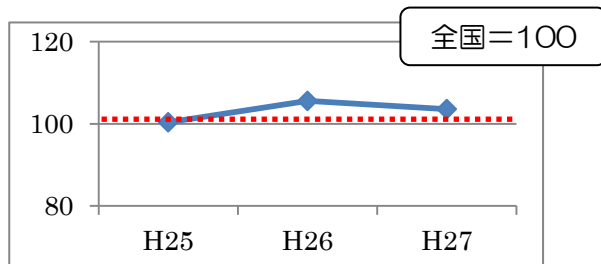


E小学校の取組のよさ

- 教員が、日記、提出ノートに温かなコメントを入れるなど丁寧に評価していること。
- 学級便りにおいて、行事や子どもの姿の後付けではなく、「どのような手立てを行い授業をしたのか」ということをまとめて発信していること。
- 校長、教頭が毎朝1～2校時学級に入り、授業の様子や児童の様子をもとに教職員に改善点の助言をしていること。

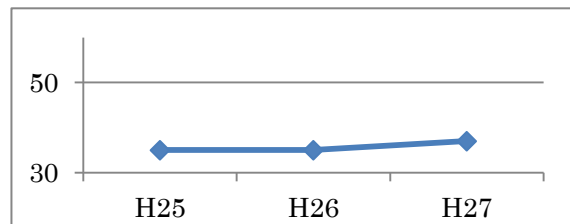
Ⅳ-4-6 F中学校 ～授業とつながる家庭学習を工夫した学校～

全国学力・学習状況調査の平均正答率の全国比の推移



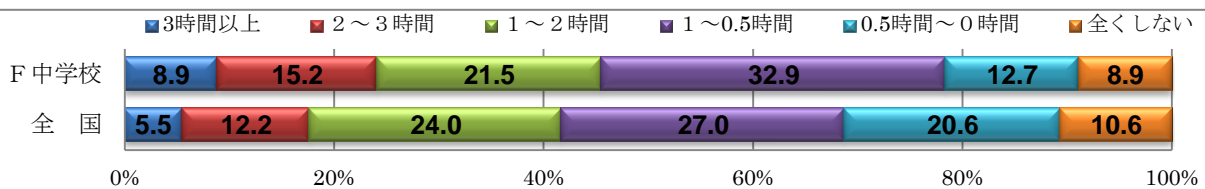
楽しい学校生活を送るためのアンケート (Q-U)

学級満足群の割合 (%) の推移

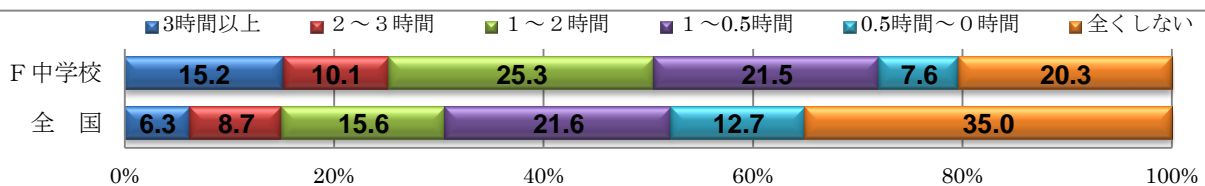


○平成27年度 生徒質問紙調査結果 (全国を3ポイント以上上回った項目)

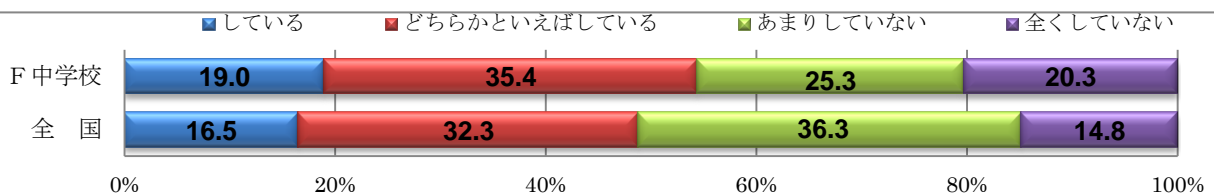
土曜日や日曜日に1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。



平日に1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。



家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。



F中学校の取組のよさ

- 生活記録を見直し、冒頭に家庭学習の手引を掲載し1週間分の予定を見開きページに配置して自主学習計画を立てやすくしたり、週末に字数制限のある作文課題に取り組めるようにレイアウトを変えたりして、家庭学習の充実に取り組んでいること。
- 朝の部活動を廃止し、生徒の計画により、自主学習、生徒会活動等に取り組めるようにしたこと。

IV-5 家庭の7つの取組

以下に掲げる7つの項目と、全国学力・学習状況調査の正答率には、相関関係があることがわかってきました。学力向上を図るためには、

○家庭での基本的な生活習慣の確立

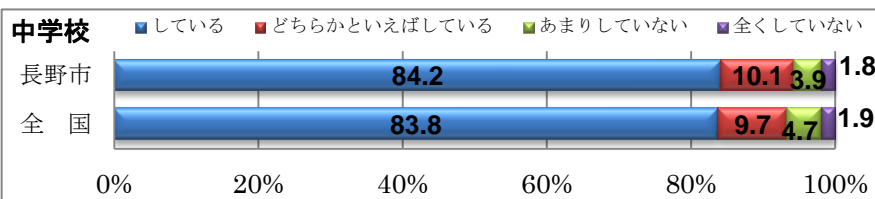
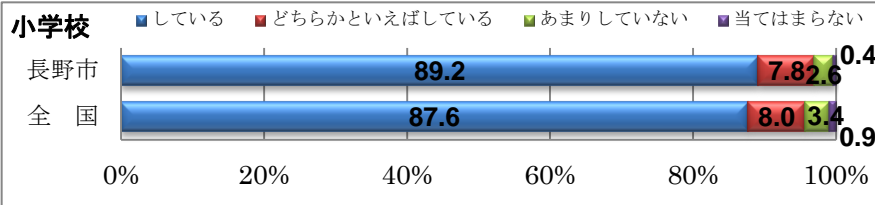
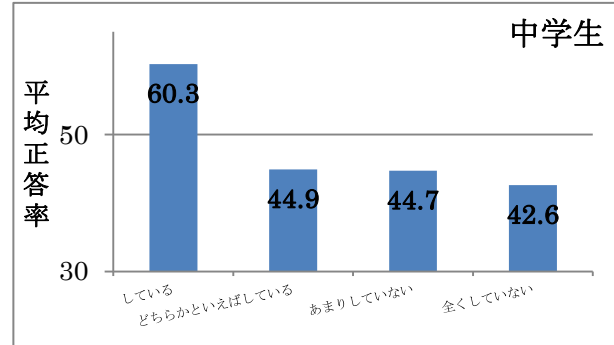
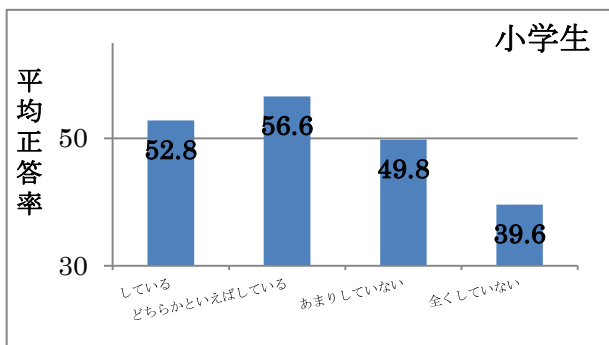
○家庭や地域でのコミュニケーションの充実

が大切です。家庭の状況に合わせて、できることから始めていくことを提案します。

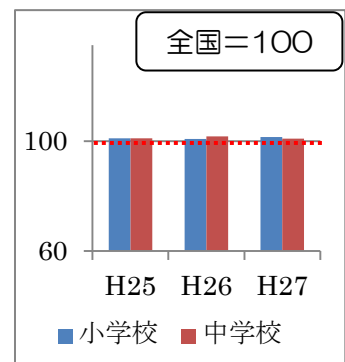
ここでは、昨年度と同様の質問に対して、平成27年度の調査結果をまとめて紹介しています。

1 毎日、朝食を家で食べさせましょう

朝食を毎日食べていますか。

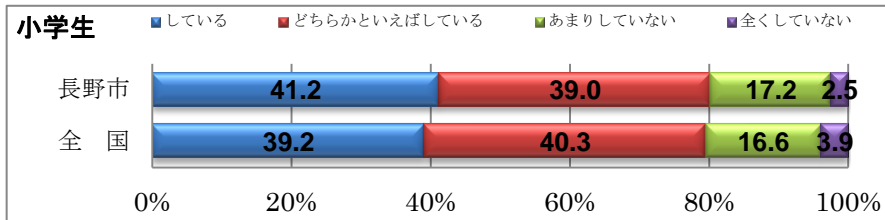
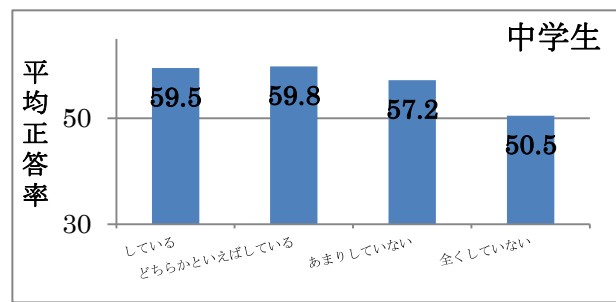
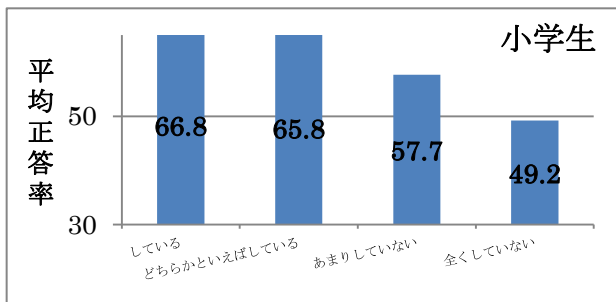


「している」と「どちらかといえばしている」

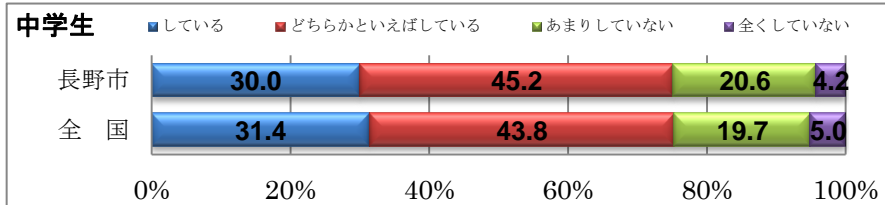
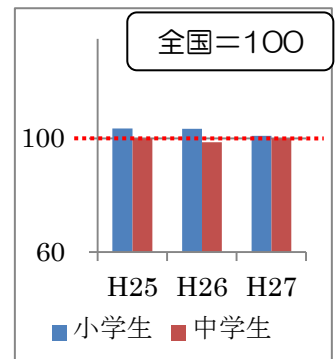


2 規則正しい生活をさせましょう

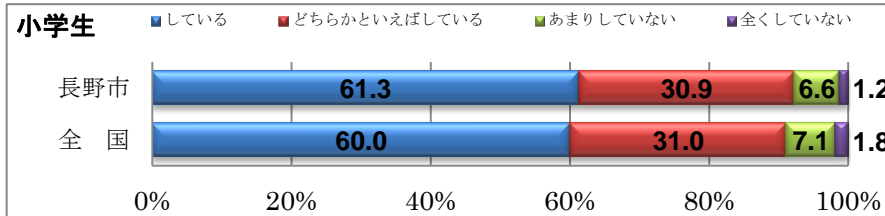
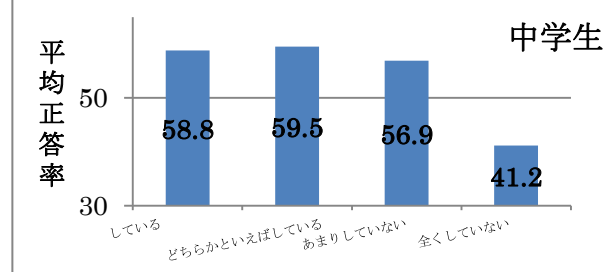
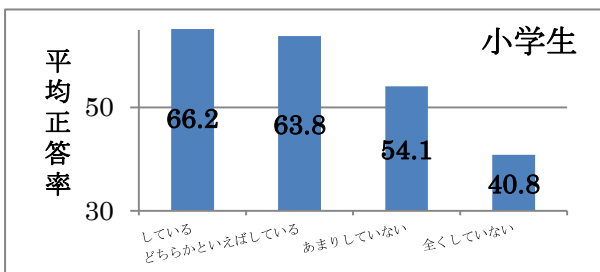
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



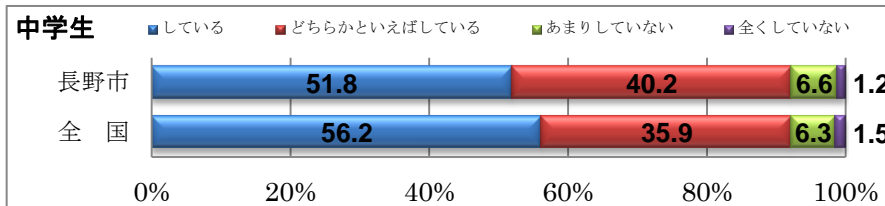
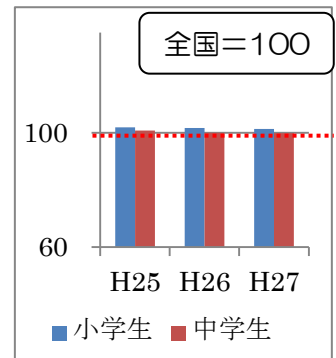
「している」と「どちらかといえぼしている」



毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。

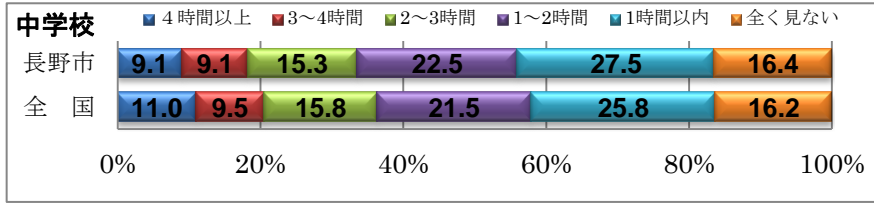
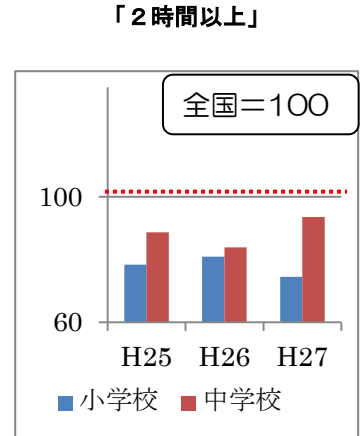
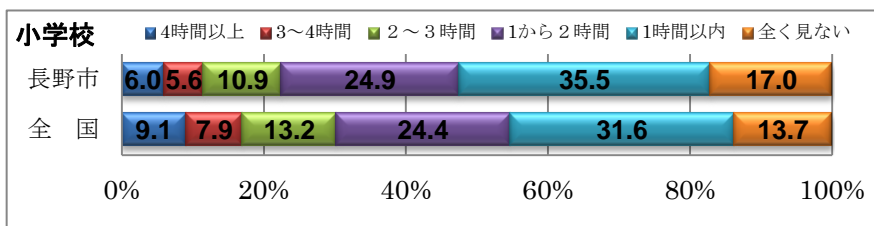
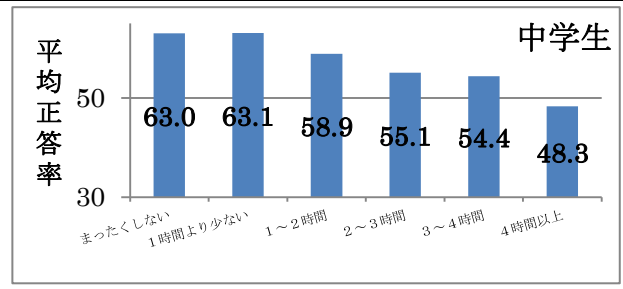
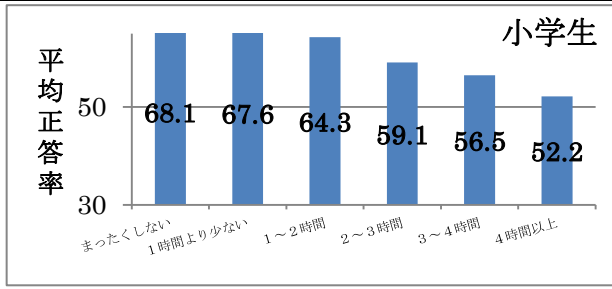


「している」と「どちらかといえぼしている」

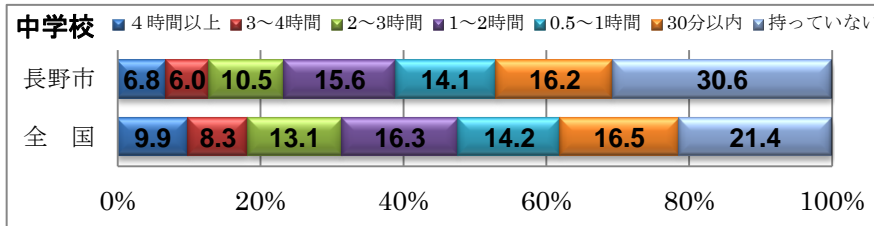
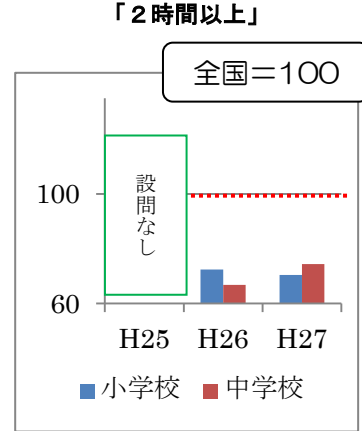
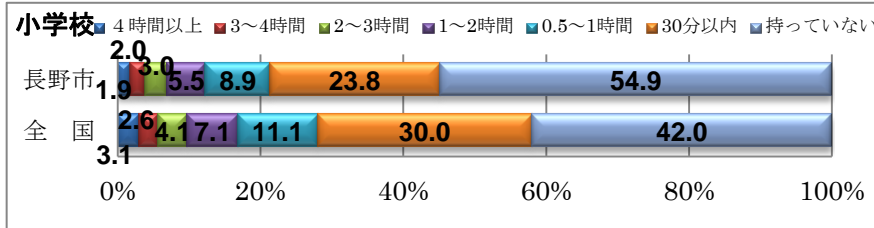
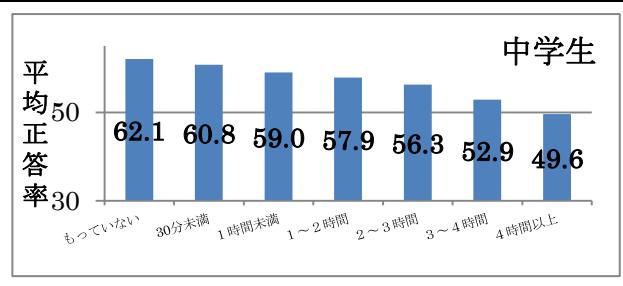
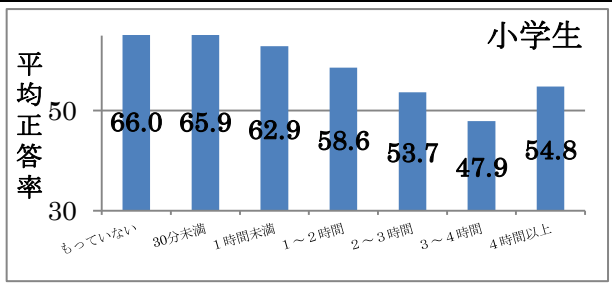


3 ゲームや携帯電話、スマートフォンの時間のルールを決めましょう

平日、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。

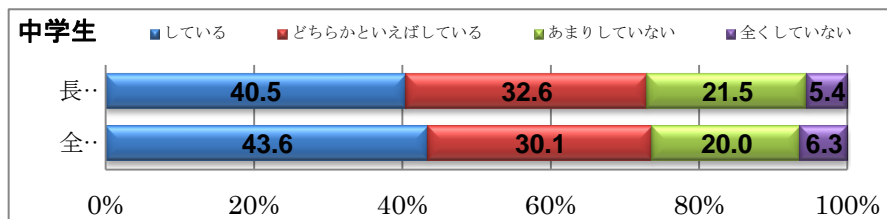
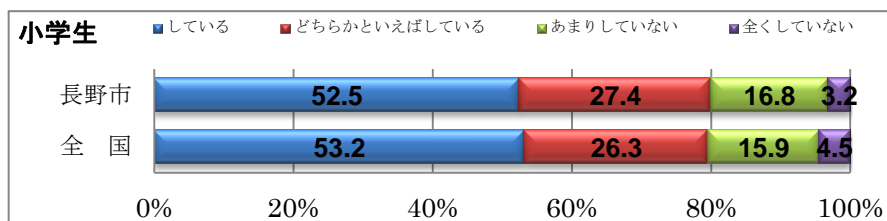
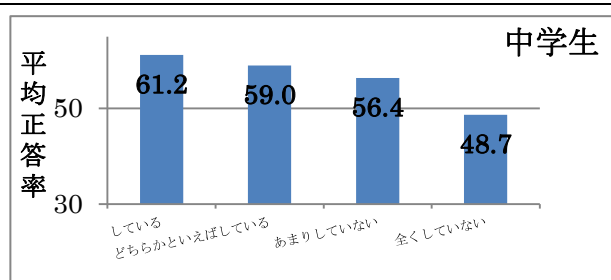
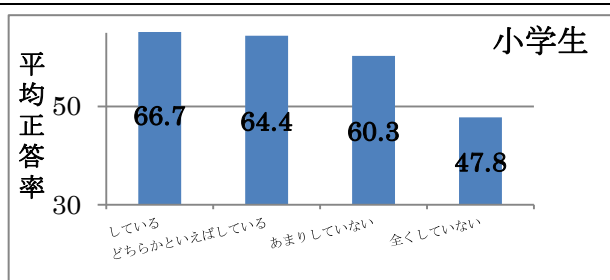


平日どれくらいの時間、携帯電話（スマホ）で通話やメール、インターネットをしますか。

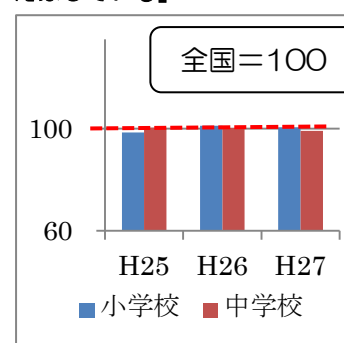


4 学校での出来事について、話を聞きましょう

家の人と学校での出来事について話をしますか。

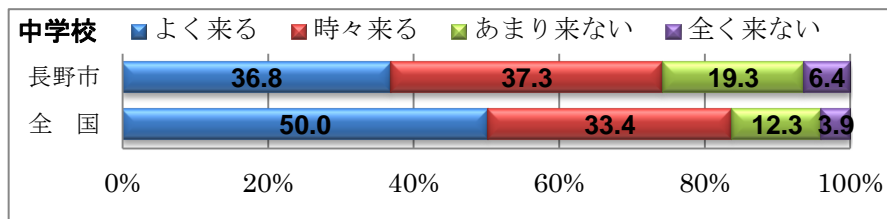
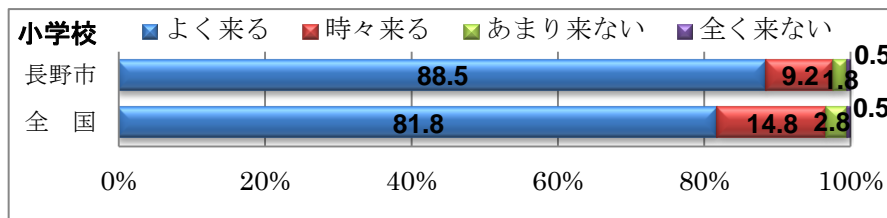
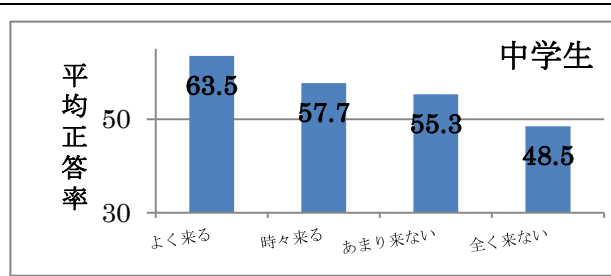
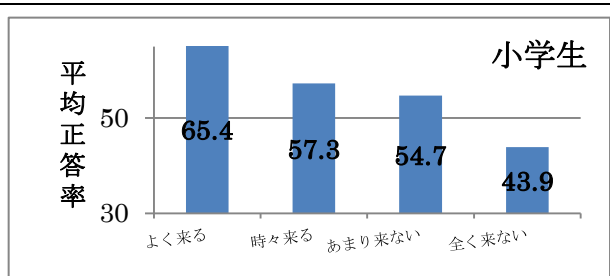


「している」と「どちらかといえばしている」

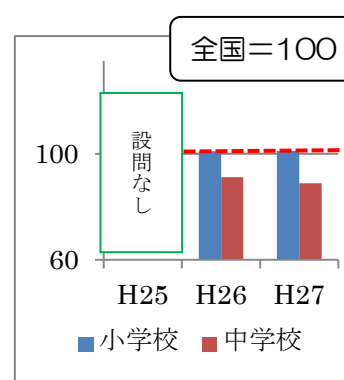


5 できるだけ、授業参観や運動会などの学校行事に行きましょう

家の方は、授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか。

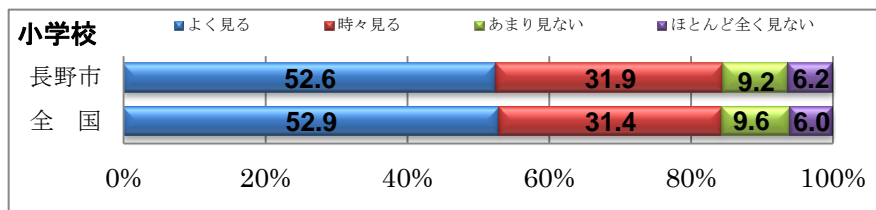
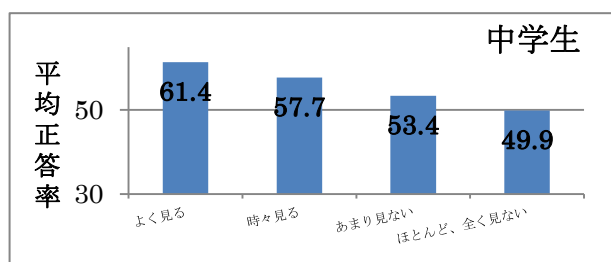
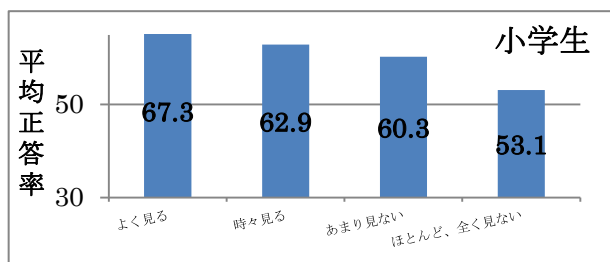


「よく来る」と「時々来る」

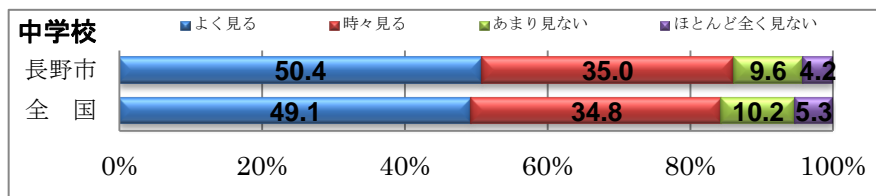
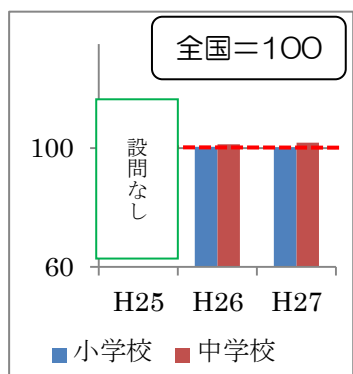


6 ニュースに関心を待たせましょう

テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか。

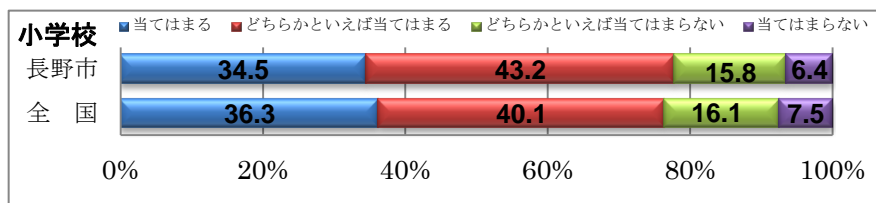
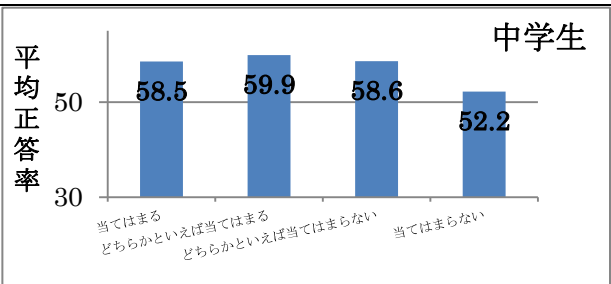
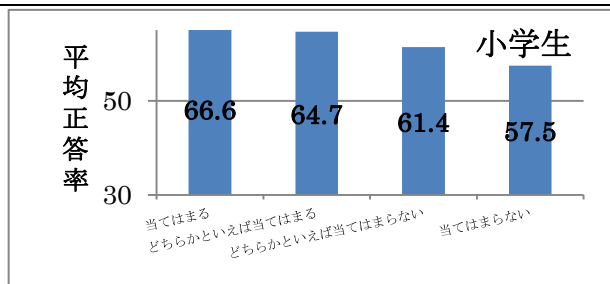


「よく見る」と「時々見る」

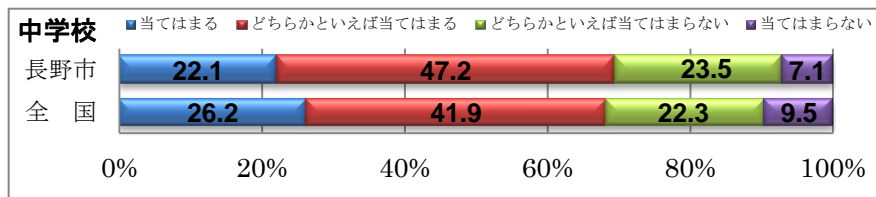
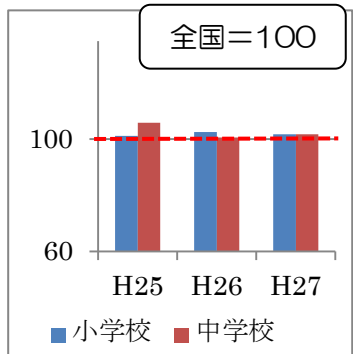


7 よいところを、たくさん見つけ、どんどんほめましょう

自分には、よいところがあると思いますか。



「当てはまる」と「どちらかといえは当てはまる」



V 各種調査の活用

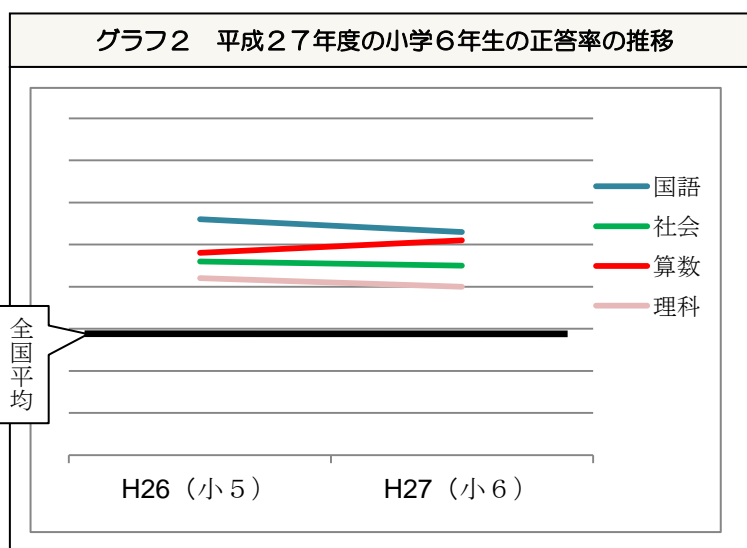
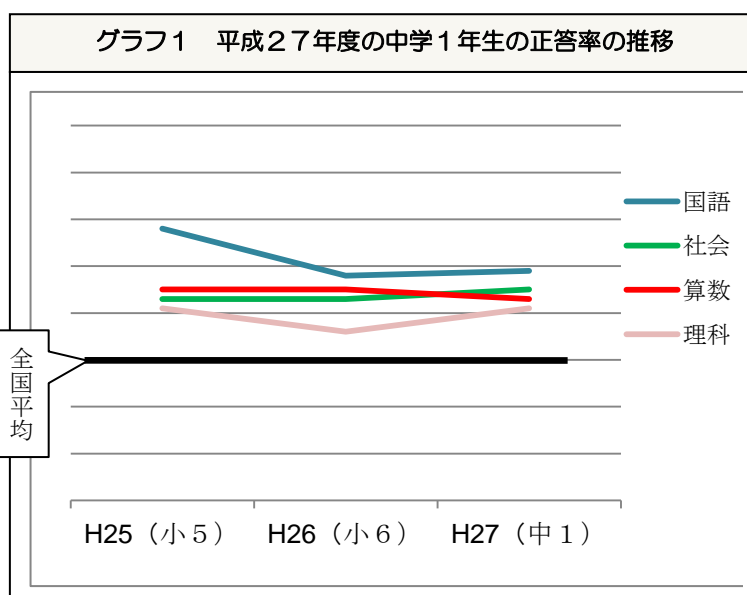
V-1 標準学力検査（NRT）

市教育委員会では、平成15年度より、小学校と中学校で標準学力検査（NRT）を実施しています。この検査は、年度当初に実施し、教師自身が検査結果を分析して、自分の授業を振り返り改善に活かしていくために実施しているものです。

右のグラフ1は、平成27年度の中学1年生、グラフ2は、平成27年度の小学6年生の教科別正答率の推移です。教科によって、多少ばらつきはありますが、どの教科も全国平均を上回っています。

今年の中学1年生の経年変化（小学校5年生、6年生、中学1年生）は、学年が上がっても大きな変化が見られないことから、この学年の子どもたちの小学校4,5,6年の学習内容は、概ね定着していることがわかります。

全国学力・学習状況調査については、調査対象の学年が異なるため、単純な比較や一般化が困難な面があります。しかし、NRTによる同一母集団で比較しても、本市小学生の学力は比較的良好であり、全国学力・学習状況調査の結果の傾向と同様です。



○以上のことから、本市小学生の学力の良好な状態を中学校でも維持していくため、小学校と中学校の接続を重要視し、学習内容の連続性や系統性を大切にするための連携を図る必要があります。

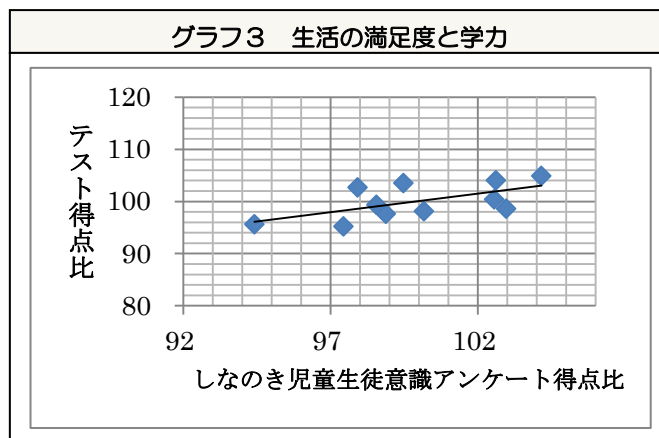
V-2 「しなのき児童生徒意識アンケート (STS アンケート)」

1 「テスト得点」と「しなのき児童生徒意識アンケート」との相関

しなのき児童生徒意識アンケートは、友だちから認められ、いやなことをされていないというクラスでの居心地のよさ（絆力）と、自分の目標をもって自己をコントロールしながら学習に取り組んでいる意識（自律力）を測定するアンケートです。

抽出した11学級（中学校2年生）の5教科の「テスト得点」と「しなのき児童生徒意識アンケート得点」との相関を調べたところ（グラフ3）、0.61の相関が得られ、かなり高い相関関係があると示唆されました。「テスト得点比」と「しなのき児童生徒意識アンケート得点比」は、抽出学級が所属する学年の平均点を100とした場合の該当学級の平均点の比です。

クラスの友だちとの関係が良好で、目標をもって学習に取り組んでいる生徒が多い学級は、平均点が高い傾向にあります。



2 中学校2年A組の「テスト得点」と「しなのき児童生徒意識アンケート」

表1のように、1学期、授業中、生徒が消極的で活気なかった中学校2年A組でしなのき児童生徒意識アンケートを行ったところ、得点比は100でした。また、テストの得点比は、100でした。

表1 「テスト得点比」と「しなのき児童生徒意識アンケート得点比」

	テスト得点比	アンケート得点比
1学期	100	100
2学期	105	104

その結果を受けて、4ヶ月間にわたって、学級の中でお互いに認め合える関係、嫌なことを言われたりされたりしない関係、自分の目標をもって自己をコントロールしながら学習に取り組む姿勢をつくろうと以下のような支援を行いました。

・支援内容

- ・「授業はみんなで作るもの」を教職員と生徒共通の意識として醸成する。
- ・学校生活のルールについて学年（学校）全体で、共通理解し、同一歩調で生徒に対応していく。
- ・学級通信、学級懇談会等で、学校生活と学習のルールの構築について保護者に知らせ、理解を得る。
- ・授業では、自己評価カードを活用し自己の学習内容を振り返る機会を確保する。
- ・授業では、個人追究、グループ学習、全体追究の時間を確保する。
- ・休み時間等、教職員が生徒と触れ合う機会を積極的にとる。
- ・教師自らが丁寧な言葉や態度で子どもに接する。特に生活ノートでは、具体的に生徒のよさを認める。
- ・短学活等で、友だちのよさを認めたり、友だちと関わる楽しさを体験できたりする場を設定する。

・結果

A組の生徒は、学校生活全般において活発に積極的に活動できるようになりました。アンケート得点比は、100から104に、テスト得点比は100から105に上昇しました。

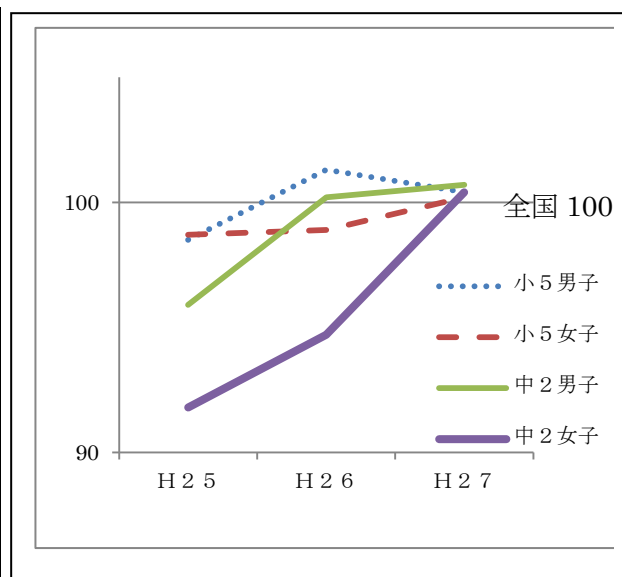
○学習成績と、しなのき児童生徒意識アンケートの得点は相関関係があり、学級が安定し、規範意識が高いことは、学力向上につながる事が明らかになってきました。

V-3 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

【H27 年度全国体力・運動能力調査結果】

	小 5		中 2	
	男子	女子	男子	女子
握力	↑	↑	↓	↓○
上体起こし	↓	↓○	↓	↑○
長座体前屈	・○	↓	↑○	↑○
反復横とび	↑	↑○	↓	↓○
20mシャトルラン	↑○	↑○	↓	↓○
50m走	↓	↓	・	・○
立ち幅とび	↑	↑○	↑○	↑○
ボール投げ	↑	↑○	↑○	↑○
持久走			↓	↓○
体力合計点	↑	↑○	↑○	↑○

【H25～27 年度体力合計点の推移】



↑：全国平均値を上回っている ↓：全国平均値を下回っている ・：全国平均値と同じ
 緑：全国平均値より+1以上 黄：全国平均値より-1以下 ○：H26年度の長野市の平均値より上回っている

- ・ 体力合計点では、おおむね全国平均点を上回った。特に中学2年女子で大きく向上しました。
- ・ 小学校5年では、男女とも、全国平均値より-1以下の種目はありませんでした。
- ・ 中学校2年男子では、全国平均値より1以上の種目が3つありました。（「長座体前屈」「立ち幅とび」「ボール投げ」）
- ・ 中学校2年女子では、すべての種目で、昨年度の長野市の平均値を上回りました。

【学校質問紙・中学2年女子の生徒質問紙より】

- 学校質問紙「授業で目標を生徒に示す活動を取り入れた」(H26・27) 100%
 生徒質問紙「授業で目標が示されている」 (H26) 79.4% → (H27) 79.9%
- 学校質問紙「学習したことを振り返る活動を取り入れた」(H26) 95.8% → (H27) 100%
 生徒質問紙「振り返る活動を行っている」 (H26) 73.3% → (H27) 76.2%

中学2年女子の体力向上の要因として、めあてと振り返りを大切にされた保健体育の授業改善が考えられます。

【H27年度中2年女子の結果をH24年度小5女子の結果（抽出で実施）から経年でみた場合】

「長座体前屈」「20mシャトルラン」「50m走」で向上が見られる。

授業において「ストレッチ体操」や「走運動」が多く取り上げられたり、改善されたりした結果と推察します。

- 調査学年以前の運動の質と量が影響しています。幼児期、小学校低学年からの取組を、より充実させていく必要があります。
- 小学校から中学校、また高校への移行期に「運動離れ」を起こしている傾向が見られます。子どもの生活全体のバランスや体への負担、運動の質や取り組む意欲など、多様な視点から運動習慣を見直す必要があると考えます。

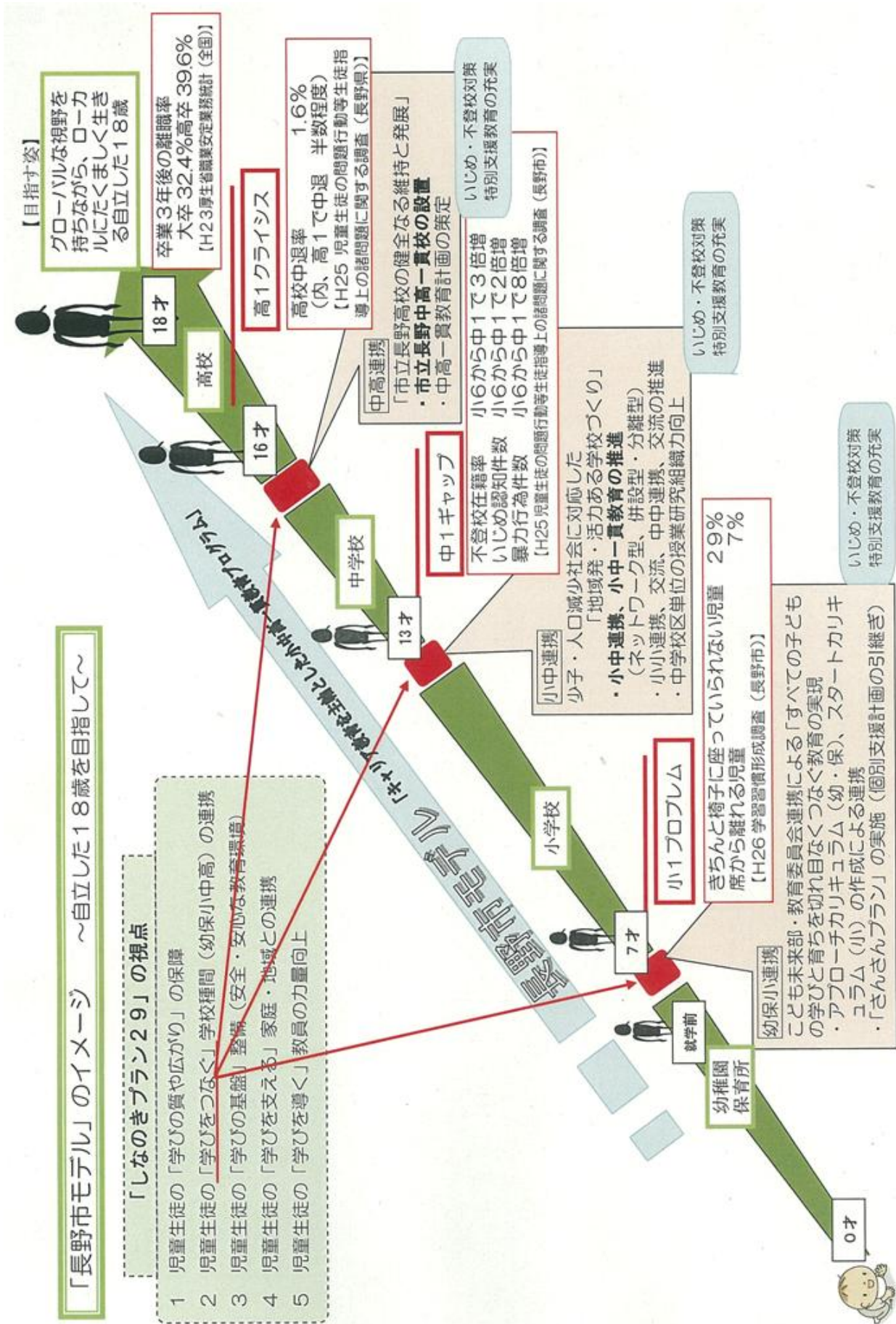
資料

資料1 しなのき授業スタンダード【学校教育課】

「しなのき授業スタンダード」とは、授業改善を図るために、1時間の授業の中で、キャリア教育につながり、C学力の育成を意識した4つの活動を取り入れたもので、ユニバーサルデザインや人権教育、学級づくり、生徒指導等の視点を大切にしたい授業です。特別なときだけでなく、日常的に行うことを提案します。

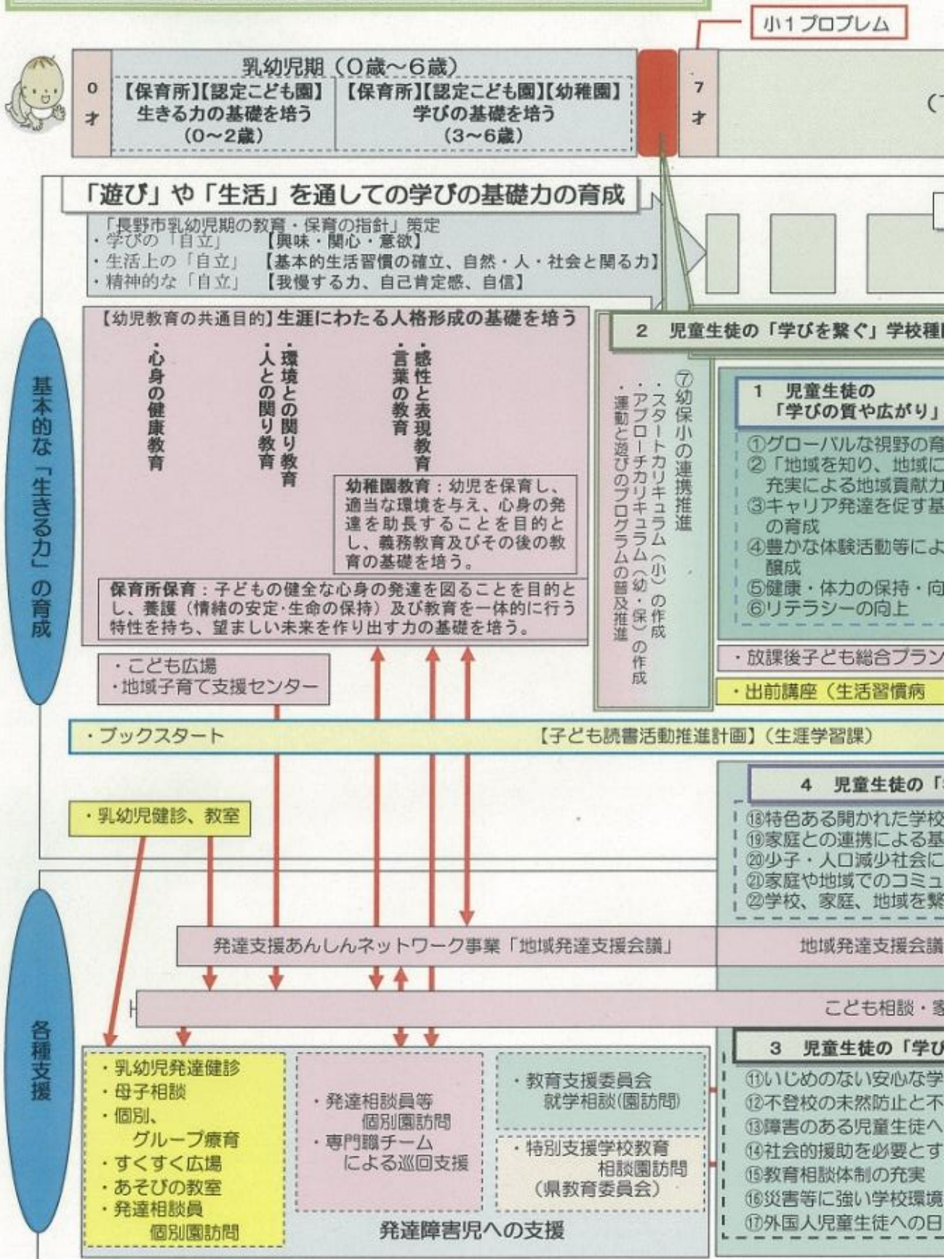
段階	活動	教師の支援		
		キャリア教育の視点	ユニバーサルデザイン化の視点	人権教育、学級づくり、生徒指導の視点
導入	○「未来力」を育む活動 課題解決のための見直しをもつ	○ <u>課題設定</u> ・学習の目的を明確にし、共有する。 ・子どもとともに課題を設定する。 ・驚きや不思議さ、必要感等のある課題にする。	・1時間の進め方の見通しの提示 ・見やすい板書、図示等の視覚化	・子どもの疑問、驚きへの教師の共感 ・友の不安、苦手意識への子ども同士の共感
	○「自律力」を育む活動 自分の考えをもつ	○ <u>個の学び</u> ・一人で活動する時間を十分確保する。 ・既知の学習内容を活用できるようにする。 ・教師の指示やヒントは最小限にする。 ・困っている子どもへの支援は、個別に行う。	・活動の時間配分が見て分かる提示 ・1文1動詞の指示 ・安心感のある補助具の活用（電卓、ヒントカード等）	・根拠を明確にし、自分の考えに自信をもたせる教師の声かけ ・個に応じたヒントの提供
	○「絆力」を育む活動 友の考えに触れ、学びを深める	○ <u>友との学び</u> ・小集団のコミュニケーション活動は、活動の目的を明確にする。 ・考えを高めあうための話し合いの方法を工夫する。 例：考え方の比較検討（共通点、相違点、分類等）	・情報を処理・整理するためのワークシートの工夫 ・考え方の発表の視覚化	・「友の考えを聴く」「友に伝える」ための教師の丁寧な指導 ・目的に応じて、意見交換できる場の設定
まとめ	○「実践力」を育む活動 授業を振り返り、まとめ、次につなげる	○ <u>学びの実感</u> ・子どもが、「わかった」「できた」等の達成感もてるようにする。 ・学習内容や学習方法を振り返り、子どもの言葉でまとめる。 ・定着、発展問題を行う時間を確保し、新たな課題を持てる場を設定する。	・その子に適した定着・発展問題 ・プリント類の整理の時間の確保（綴じる、貼る等）	・友の良さを認める場の設定 ・子どもの努力への教師の承認 ・授業の終了時刻の厳守
一時間を通して	<p>※思考を深める発問と指示を的確・端的に行い、「子どもの活動時間」を十分確保します。</p> <p>※日ごろから、学び合いができる人間関係構築に努め、失敗が許され、「わからない」と言え、友の「まちがい」から学ぶ関わりを大切にします。</p> <p>※一時間の思考過程を振り返ることができる構造化された板書を行います。</p> <p>※ICT 機器を効果的に活用して児童生徒の学びを深めます。</p> <p>※家庭学習への見直しを大切にします。</p> <p>○ねらいを明確化し、流れのめりはりをつけ、ねらいの達成を見とどけます。（県教委の3観点）</p>			

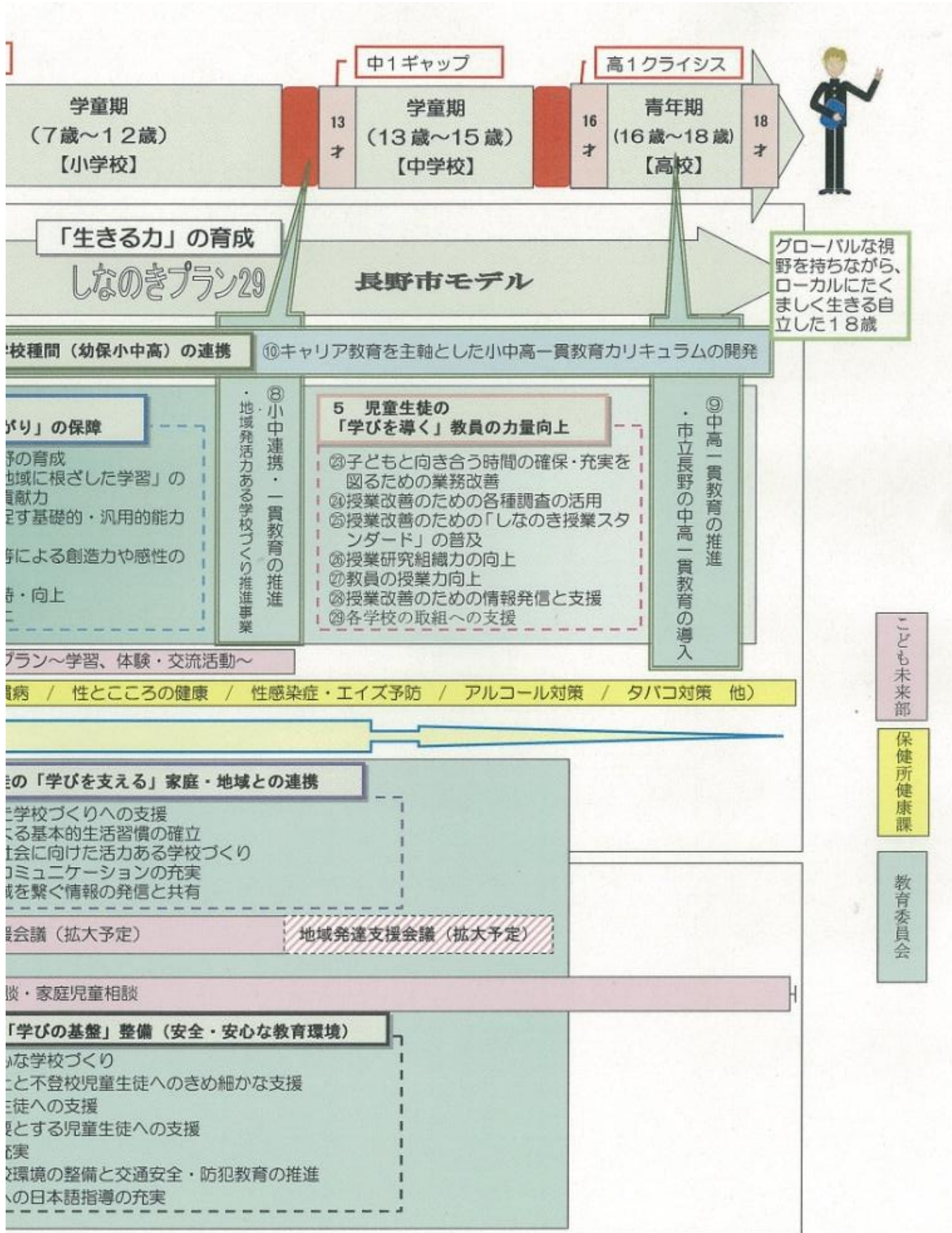
資料2 「長野市モデル」のイメージ【学校教育課】



資料3 自立した18歳を目指して【学校教育課】

基本的な「生きる力」の育成と各種支援～自立した18歳を目指して～

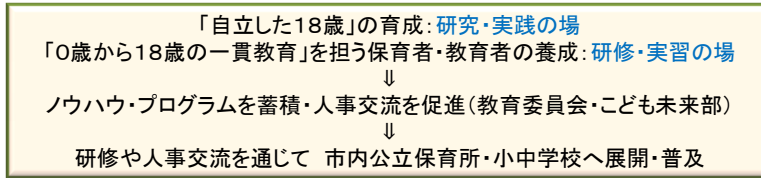




資料4 児童生徒の学びをつなぐ「幼保小中高」の円滑な接続【学校教育課】

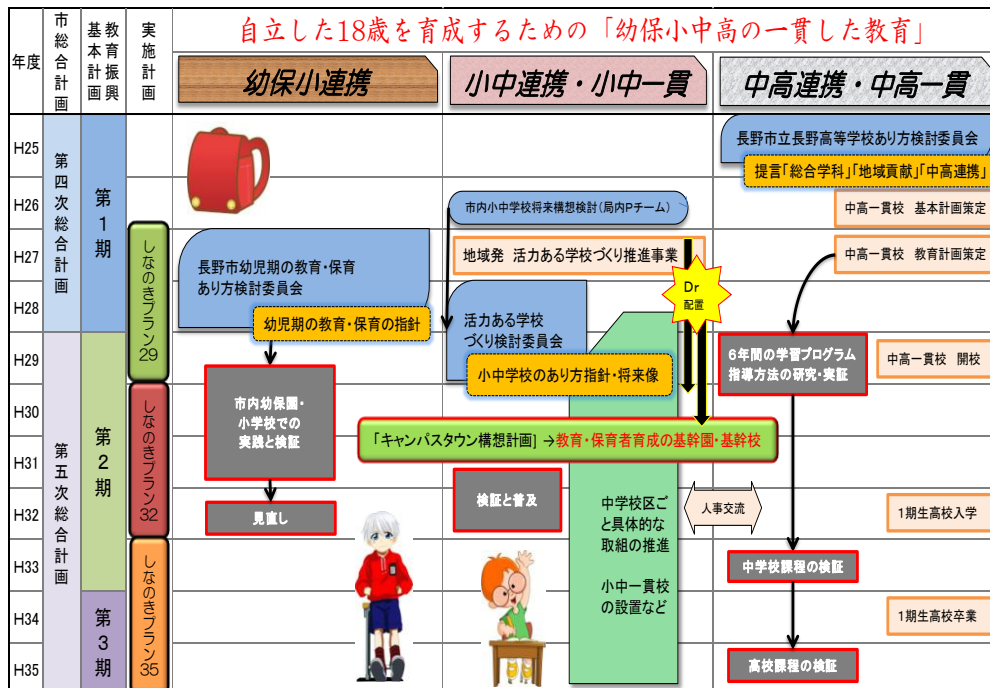
1 実施事業

児童生徒の学びをつなぐ「幼保小中高」の円滑な接続(プラン7~10)



校種間の接続	円滑な接続のための事業(子どもの交流・教員交流)	異年齢交流事業	支援情報の接続	指針作成と検証の場
幼保小連携 (小1プログラム)	幼保小連携会議 ◇ アプローチ・スタートカリキュラムの策定 ◇ 保育士・教員交流 ◇ 園児・児童交流	わくわく運動遊び <市内7会場で実施、園児・児童・保護者・保育士・教員が参加>	発達支援あんしんネットワーク事業	「幼児期の教育・保育のあり方検討委員会」(H27~)
小中連携 (中1ギャップ)	地域発 活力ある学校づくり推進事業 ◇ 学校間、学校と地域を繋ぐ取組 ◇ 児童生徒交流・教員交流・共同研究等 小中連携の推進・小中一貫校の設置	わくわくながの体験・発見・貢献隊 <保健センター8か所て年3~4回実施>	地域発達支援会議	「活力ある学校づくり検討委員会」(H28~)
中高連携 (高1クライシス)	中高一貫教育の実施 ◇ 中高一貫教育カリキュラムの実践 市立長野中高一貫校の設置	地域発リーダーズながの <小中高校生約30人参加、8回連続講座>		「市立長野あり方検討委員会」(H25~) 中高一貫校取組の検証(H29~)

2 今後のスケジュール



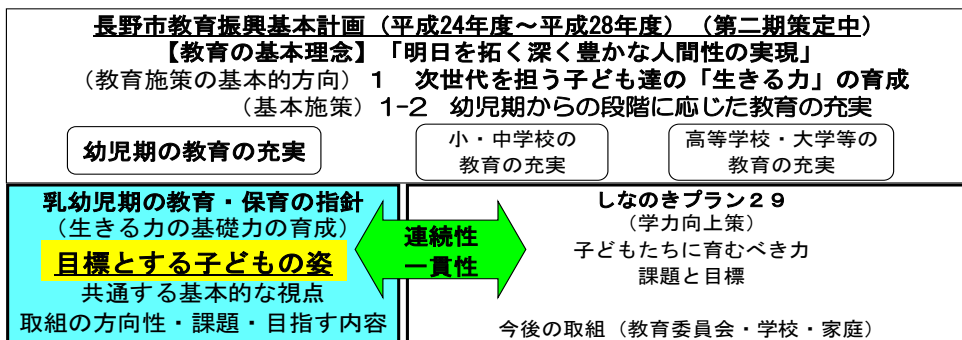
資料5 長野市乳幼児期の教育・保育の指針【こども未来部】

1 長野市乳幼児期の教育・保育の指針中間答申素案より（こども未来部）

(1) 策定の趣旨

生涯にわたる人格形成の基礎を培うとともに、「学びの入口」としても重要な乳幼児期の教育・保育について、就学期への連続性・一貫性という視点も踏まえ、長野市教育の基本理念「明日を拓く深く豊かな人間性の実現」につながる基本指針等を新たに策定するもの

(2) 指針の位置づけ



(3) 指針の期間

平成29年度から平成33年度までの5年間（第二期教育振興基本計画と整合）

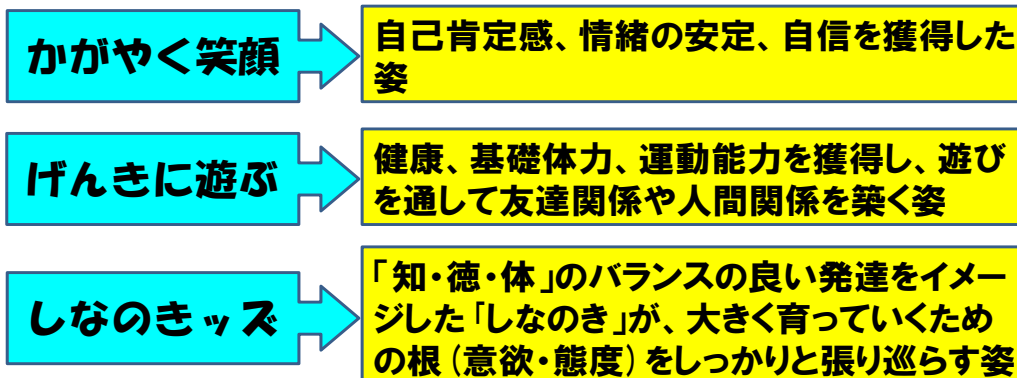
(4) 目標とする子どもの姿

本市の豊かな自然と文化を生かした安全な環境の中、子ども達が「遊び」や「生活」を通して、小学校からその先の「生きる力」の基礎を培うことによって実現する、目標とする子どもの姿として

かがやく笑顔で げんきに遊ぶ しなのキッス

を定めます。

この目標が表す子どもの姿



しなのきプラン29

グローバルな視野を持ちながら、ローカルにたくましく生きる自立した 18

かがやく笑顔で げんきに遊ぶ しなのキッズ

しなのキッズに育まれる力

自分で健やかな生活をつくろう。

(自律力)

- ・よく食べ、よく寝て、規則正しく生活する。
- ・自分でできることは、自分でやろうとする。
- ・きまりを守る。
- ・時間や状況に合わせて行動する。

感じて、考えて、チャレンジしよう。

(実践力)

- ・好奇心や探究心いっぱいの人やものと関わり「やりたいこと」に夢中になる。
- ・自分の思いに向かって試行錯誤しながら最後までやり通す。

自信を持ち、自分を好きになろう。

(未来力)

- ・満足感や達成感を得たり認められた嬉しさを感じたりし、自信を持って、いろいろなことへの関心意欲を高める。
- ・心を動かすものや美しいものにふれ、やってみたいことや好きなことを持つ。

聴いて、話して、分かち合おう。

(絆力)

- ・戸外で様々な年齢の友達と元気に遊ぶ。
- ・相手に自分の思いや考えを伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりし、分かち合おうとする。
- ・友達と共通の目的に向かってやり遂げ、喜びを感じる。
- ・友達の良いところに気付く。
- ・あいさつをする。

生活上の自立

(基本的な生活習慣の自立、人・ものに関わる力の育成)

学びの自立

(興味・関心・意欲を高める)

精神的な自立

(自己肯定感・我慢する力の育成)

基本的な3つの視点

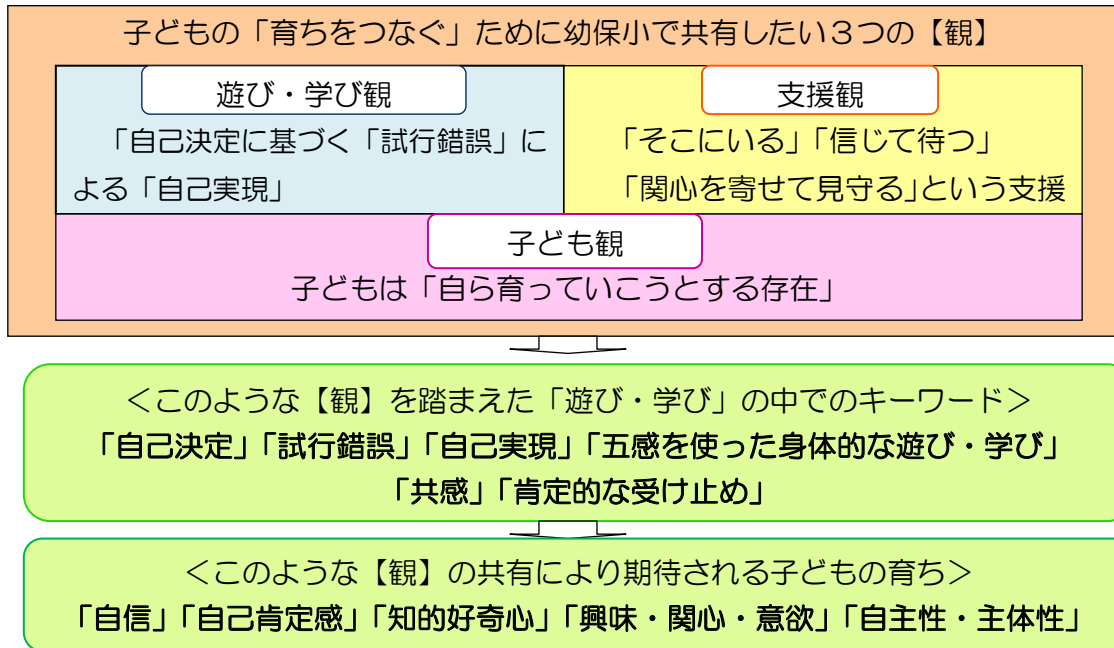
生きる力の基礎を育むために取り組みたい項目

「遊び」や「生活」を通しての
生きる力の基礎力の育成

情緒の安定

家庭 社会 教育・保育施設

2 幼保小で共有したい「3つの【観】」



3 幼稚園・保育園と小学校をめぐる〔壁〕の問題

- 内容や活動の場などの自由度の高い「遊び」中心の生活
- 登下校を保護者に付き添ってもらう生活
- 年長者として、「幼稚園、保育園のリーダー」として「面倒を見る」立場
- 慣れ親しんだ友達、先生との生活
- ゆるやかな枠付けでの生活

- 内容の〔壁〕
- 自立の〔壁〕
- 立場の〔壁〕
- 人の〔壁〕
- 時間の〔壁〕

- 教室中心で内容が明確に規定された「教科学習」中心の生活へ
- 登校班等、子どもだけで登下校する生活へ
- 最年長として、上級生や先生に「面倒をみてもらう」立場へ
- 初めて出会う友達、これまでとは感じの違う先生、目線の違う上級生との生活
- 「授業時間」「休み時間」といった明確に枠付けられた生活へ

- ランドセルを何回も背負ってみたり、文房具を大事そうに眺めたりする入学前の子どもの姿は小学校に行くことを楽しみにした新しいステージへの期待感の表れです。
- 子どもの成長には、「背伸びとジャンプ」が必要であり、幼保と小の壁は子どもにとって必要なものだと考えてみてはどうでしょう。
- それは「今すぐにできないことは取り去ってしまう」といった「壁をなくす」という考え方とは違うように思われます。子どもの可能性の芽を引き出すよう、「繰り返してじっくりとやればできる」「友達と協力すればできる」「先生が少し支えればできる」というように「壁を意識」し、その壁を「子どもが乗り越えていく可能性」として見極めた生活づくりをしていくことではないでしょうか。

* 2、3は、リーフレット「長野市における幼児教育と小学校教育の接続のあり方（平成27年3月長野市幼保小連携会議）」より抜粋

4 育ちをつなぐ～見据えて育みたい力・受け止めて伸ばしたい力

育ちをつなぐ～見据えて育みたい力・受け止めて伸ばしたい力～（「幼保小接続期ベースカリキュラム」）

子どもの「育ちをつなぐ」ために幼保小で共有したい3つの【観】：「子ども観」（子どもは「自ら育っていこうとする存在」）・「遊び・学び観」（「自ら学ぶ」の児童にとっての5つの【壁】をなくそうとするのではなく、教師が【壁】を意図して、子どもが【壁】を乗り越えていく可能性の芽を引き出す）

		「遊び」や「生活」を通しての学びの基礎力の育成			
		就学前に育みたい力			
		(幼児期) 学びの芽生え			
保育・幼児教育5領域	生活上の自立 (基本的な生活習慣の自立、人・ものとかかわる力の育成)	自律の芽 (生活する力)	健康で安全な生活をする	<ul style="list-style-type: none"> ○ 早寝・早起き・朝ご飯などリズムの整った生活をする。 ○ 避難訓練を通して、災害時などの行動の仕方を知る。 ○ 危険な場所があることについて知る。 ○ 自然とふれあったり、思いきり体を動かしたりして遊び、わくわく感や満足感を味わう。 ○ 様々な食べ物に興味や関心をもち、進んで食べようとする。 ○ 手洗い・うがいを進んで行う。 ○ 自分で歯磨きをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 危険な場所や危険な行動がわかり、安全に行動する。 ○ ルールのある集団遊びを楽しんだり、その他の様々な運動遊びに挑戦する。 ○ トイレ（和式・洋式の両方）の使い方が分かる。 ○ 食事に関するきまりやマナーを守りながら、楽しく食べる。一定の時間内で食べ終える。
			自分のことを自分で行う	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1日の流れの見通しをもって生活する。 ○ 自分の持ち物の準備や片付けをする。 ○ 着替えたものを自分でたたむ。 ○ 自分の靴をそろえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1日の流れや週の主な予定の見通しをもって生活する。 ○ 自分で次の活動の準備をしたり、時間内に片付けたりする。 ○ 暑いときに重ね着したり、暑いときに薄着になったりする。
			健康	好奇心・探究心をもって人やものとかかわる	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自然とふれあい、季節を体で感じながら暮らして遊ぶ。 ○ 身の回りのもの（紙、布、紐、箱等）を材料に用いた遊びを楽しむ。 ○ やりたいことに夢中になって取り組み、発見、試行錯誤、工夫、挑戦、新たな知識の獲得などに楽しさやおもしろさ、満足感を味わう。 ○ 活動を最後までやり通す。 ○ 必要に応じて身近な道具や用具（はさみ、のり、テープ等）を使う。
環境	学びの芽 (学ぶ力)	文字や数量などの感覚を豊かにする	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文字や様々な標識に興味をもち、読んだり意味を読み取るようになったりする。 ○ 遊びに使う物の数、人数など数量を数えたり比べたりする。 ○ 身の回りの形状（三角、四角等）に関心をもち、 ○ 生活の中で、様々な音、色、手触り、動き、味、香りなどに気付いたり感じたりして楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 遊びや生活の中で、数の必要性や便利さに気付く、自分で数えたり、比べたり、分けたり、数字を読んだり書いたりしようとする。 ○ 遊びや生活の中で、丸、三角、四角等の形を使おうとする。 	
言葉		感じたこと、考えたことを表現する・受け止める みんなで取り組む楽しさを感じる	<ul style="list-style-type: none"> ○ 遊びや生活の中で、自分の思いや考えを友だちに言葉で伝えようとする。 ○ 遊びや生活の中で、友だちの思いや考えを聴こうとする。 ○ 絵本や短い物語に興味をもって聴き、想像することを楽しむ。 ○ 感じたことや考えたこと、出来事などを言葉や絵、動作などいろいろな方法で表現することを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の気持ちや考えをクラスの人に話す。 ○ 話す人を見て、正しい姿勢で、落ち着いた話を聴く。 ○ 絵本や短い物語の読み聞かせを通して、言葉のおもしろさを感じたり、想像の世界を友だちと共有したりして楽しむ。 ○ クラスのみんなと一緒に歌うこと、リズム遊びをすること、作品をつくること、演じることなど、表現することを楽しむ。 	
表現		人間関係	認め合ううれしさ・分かち合ううれしさを感じる	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友だちと共通の目的に向かって、考えを出し合いながら取り組む楽しさ、やり遂げた喜びを味わう。 ○ 遊びや生活の中で、気持ちを言葉で伝え合い、友だちと喜びや悲しみを共有するとともに、自分の気持ちを調整したり、友達の良い言葉に気付いて認め合ったりする。 ○ 異年齢児との遊びの中で、リーダーとして自覚をもって行動したり、年少児・年中児などに思いやりをもってかかわったりする。 ○ 小学生との交流を楽しむ。 ○ 家族やお世話になった方々に感謝の気持ちをもち、 ○ 戸外で群れて遊ぶ。 ○ 当番など自分の役割を果たし、「しゅかりできた」という自信を得る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ルールのある遊びやチームでの遊びを通して、一緒に力を合わせてできた喜びや悔しい気持ちなど勝ち負け両方の気持ちを覚える。 ○ 当番など自分の役割を、みんなのために張り合いをもって行う。
健康	精神的な自立 (自己肯定感、自尊、我慢する力の育成)	協同の芽 (かかわる力)	あいさつをする	<ul style="list-style-type: none"> ○ 身近な人にあいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 身近な人に進んであいさつをする。
環境			約束を守る	<ul style="list-style-type: none"> ○ 約束を守って生活する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ よいことや悪いことの区別が分かり、自分で考えて行動しようとする。

就学時に目標とする

かがやくげんきにしたいかな

自分で健やかにつくろう。(→自)

- ◎よく食べ、よく規則正しく生活
- ◎自分でできる自分でやろう
- ◎きまりを守る
- ◎時間や状況に行動する。

感じて、チャレンジしよう。(→)

- ◎好奇心や探究心に人やもの、物、事、ことに夢中になる
- ◎自分の思いに試行錯誤しながらやり通す
- ◎文字や数量なをもち、(→)

自信をもちを好きになろう。(→)

- ◎満足感や達成感を感じたり、認められたり、成功したり、
- ◎心を動かすものや活動に思いやりをもち、

聴いて、分かち合おう。(→)

- ◎戸外で群れて遊ぶ。
- ◎相手に自分の考えを伝えたり、思いや考えを聞き取りながら
- ◎友だちと共通の目的に向かってやり遂げようとする
- ◎友だちのよい言動に気づく。
- ◎あいさつを

*赤枠内について…近隣の幼稚園・保育所・小学校において、接続期カリキュラム（アプローチ・スタートカリキュラム）を作成し、相互理解を図りながら

（「自己決定」に基づく「試行錯誤」による「自己実現」）・「支援観」（「そこにいる」「信じて待つ」「関心を寄せて見守る」という支援）を引き出す支援、【壁】を成長のチャンスと捉えた支援に努めましょう。

「生きる力」の育成
就学後に伸ばしたい力

とする子どもの姿
やく笑顔で
んきに遊ぶ
まのきッズ

で健やかな生活
ろう。
（→自律力）

べ、よく寝て、
しく生活する。
できることは
行おうとする。
を守る。
状況に合わせて
る。

て、考えて、
ンジしよう。
（→実践力）

や探究心いっば
やものとかかわ
やりたいこと」
になる。
態に向かって
換しながら最後
り通す。
数量などに関心
。（→A学力）

をもち、自分
になろう。
（→未来力）

や達成感を得た
られた嬉しさを
り、自信をち
る。

かすものや美し
にふれ、やっ
てにことや好き
なこ
つ。

て、話して、
い合おう。
（→絆力）

群れて元気に遊
ぶ。

自分の思いや考
えたり、相手の
考えを受け止め
ながら、分かり
とする。
と共通の目的に
てやり遂げ、喜
びを感じる。
のよいところに
つをする。

	(学童期) 自覚的な学び	
就学時の児童にとつての「5つの壁」	<ul style="list-style-type: none"> 登校時刻を意識して、早寝・早起き、朝ご飯、家庭学習などリズムの整った生活をする。 登校ルートを確認して、新しい環境における児童館などの行動の仕方を知る。 「学校探検」等を通して、教室、トイレ、体育館、校庭、保健室、図書室等の場所を知り、学校に慣れる。 安全な登下校の方法を知り、通学する。（歩き方、危険箇所、登校時刻、下校時刻等） 分からないことや困ったことについて自分で考えて行動したり、先生や友だちに聞いてみる。 新しい先生と友だちとの遊びや生活に楽しさを感じる。 学校のトイレの使い方が分かる。 食事に関するまじりやマナーを守りながら、楽しく食べる。一定の時間内で食べ終える。 昼食の準備・片付けの手順などを知り、慣れる。 学校での1日の流れ、チャイムや放送で行動することに慣れる。 自分の持ち物や共有・共有のものの片付け方を知り、その方法で片付けや整理整頓を行う。 遠慮に応じて進んで着替える。 自分の数を数える。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内のいろいろな場所が分かり、自分で行動する。 休み時間に、進んで友だちと体を動かして遊んだり、なわとびや鉄棒など自分で目標を立てて運動したりする。 昼食の準備・片付けを協力して行う。 時刻表または連絡帳を見て、自分で翌日の持ち物を準備する。 翌日の予定を自分で連絡帳に記入する。 自分の持ち物や共有・共有のものの片付けや整理整頓を運んで行く。
	<ul style="list-style-type: none"> 園での体験を生かして「できそうだ」「おもしろそうだ」「僕ったことがある」などと自信や興味をもって取り組む。 「書きがし」など身近な自然にかかわる活動で、発見したり誇ったり表現したりすることを楽しむ。 文字（平仮名、片仮名）に興味をもち、読み書きの練習に繰り返し取り組んで習得する。 園での体験を生かし、興味物を用いた活動に興味をもって取り組む。 人々のもの、ことに出会うことに喜びを感じる。経験したことや感じたことや考えたことを自分なりに表現しようとする。 正しい姿勢、話し方・聴き方、発言の仕方、鉛筆の持ち方等の学習規律や学習習慣を確認し、身に付ける。 自分の気持ちや考えなどを教師や友だちに伝える。 絵本や物語などの読み聞かせを通して、想像の世界を新しい友だちと共有しながら楽しむ。 園での体験を生かして、新しい友だちみんなと歌うことに楽しさを感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 興味関心を広げながら新たなことに挑戦したり、自分の思いやめあてに向かって粘り強く取り組んだりするよさを感じる。 いろいろな材料の特徴を感じたり用途に応じた用具を用いたりする経験を積む。 身近な自然や動物物に心を奪われてかわったり、自分で感じたことを表現したりする。 文字（平仮名、片仮名）を使って、自分の思い、考えを伝える喜びを感じる。漢字にも興味をもち、読み書きの練習に取り組む。 興味物を用いた活動を通して、数、図形、量と測定についての感覚を豊かにする。 ペアやグループ活動の進め方を知り、慣れる。 考えを伝え合い、互いの考えを比べることを通して、自分の考えを深めたり広めたりする。 進んで発言をする。 大事なことを無とさずに聴き、分からないことは質問をする。 図書館で自分で本を選び、読書の楽しさを感じる。 語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読する。 「友だちとちょっと歌いたい、演奏してみたい」など、音楽への意欲を高めたり興味関心を広げたりする。
時間の「壁」		
自立の「壁」		
内容の「壁」		
立派の「壁」		
人の「壁」	<ul style="list-style-type: none"> 先生や新しい友だちの名前を覚え、共に活動を楽しむ中で、考えを自分の言葉で伝える。 学習や生活、遊びの中で、友だちと喜びを共有し、困ったことを共に考えることを通して、互いの声に気づき、話の合う。 姉妹学級や児童会などの異学年との活動を通して、いろいろな人とのかわりに楽しさを感じる。 先生方や職員、下校など自分の学級以外の人の名前を覚え、多様なかわりを経験する。 学校周辺に目を向け、地域の様子に興味をもつ。 新しい仲間と群れて遊ぶ。 当番の仕事の内自ややり方を覚えて行う。 清掃のやり方を覚えて行う。 先生や友だち、地域の方など身近な人と進んであいさつをする。 返事を覚える。 みんなで気持ちよく生活するために約束があることを理解し、守る。 	<ul style="list-style-type: none"> 気持ちや考え、疑問などを互いに伝え合いながら、共に学習や生活するよさを感じる。 当番や係活動、清掃などにおいて、自分の仕事を進んで行い、みんなのために働く経験を積む。

健康・
体力
情操・
人間性

A学力
(知識・
技能)

B学力
(活用、
思考力・
判断力・
表現力)

C学力
(意欲・
態度)

・自律力
・実践力
・未来力
・絆力

長野市が大切にしたい
主な資質・能力

自律力…規範意識を持ち、自己をコントロールする力
(自己理解・自己管理能力)

実践力…得た知識・技能及び思考力・判断力・表現力を駆使して、粘り強く課題に対応し、行動する力
(課題対応能力)

未来力…将来の夢や目標と見通しを持ち、努力を継続できる力
(キャリアプランニング能力)

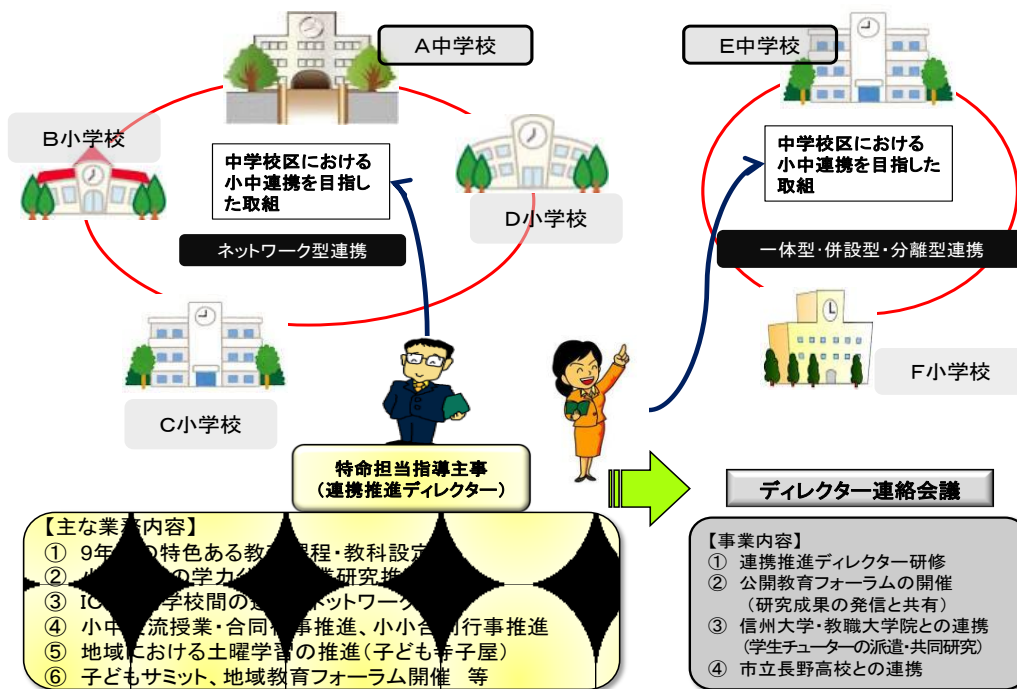
絆力…他者を尊重し、積極的に人間関係を築こうとする力
(人間関係形成・社会形成能力)

グローバルな視野を持ちながら、ローカルにたくましく生きる自立した
18歳

まが枠内の力を育んでいきます。*下線部について…年長時のはじめから、または、就学時から育み身に付くようにしたい力を示しています。

資料6 「地域発 活力ある学校づくり」推進事業【学校教育課】

1 実施事業



2 ディレクターの配置地域

地域	連携のタイプ	中学校	小学校	配置
市街地タイプ	完結 ネットワーク型	A中学校	綿内小 保科小 川田小	平成27年度～ 1名
		松代中	松代小 清野小 西条小 豊栄小 東条小 寺尾小	平成28年度～ 1名
		豊野中	豊野西小 豊野東小	平成28年度～ 1名
	複線 ネットワーク型	東北中	古里小 柳原小 長沼小 徳間小	平成28年度～ 1名
		篠ノ井東中	篠ノ井東小 通明小	平成27年度～ 1名
中山間地タイプ	縦連携型 併設型	戸隠中	戸隠小	平成27年度～ 1名
		鬼無里中	鬼無里小	平成27年度～ 1名
		信州新町中	信州新町小	平成28年度～ 1名
		大岡中	大岡小	平成28年度～ 1名
		七二会中 中条中	七二会小 中条小	平成27年度～ 1名



学校教育目標

知・徳・体のバランスの取れた生きる力を持ち、
国際的な視野に立って地域の発展に貢献する人材の育成

使 命

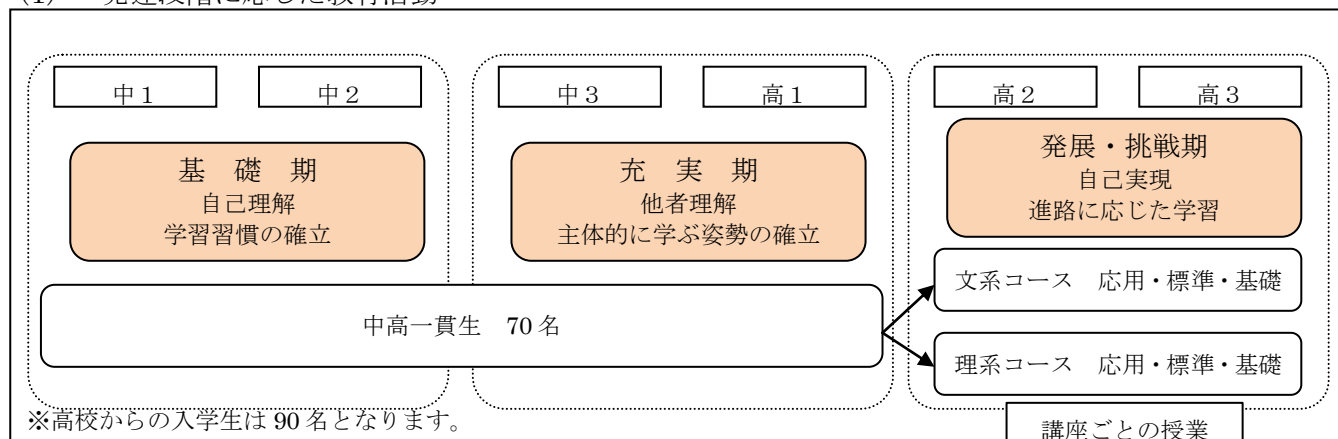
- ・ 6年間の体系的・系統的な教育を実施し、高い教養と健康な心身をもち、地域社会を担う人材の育成
- ・ 多様な体験的活動を通して視野を広げ、生涯にわたって主体的に学ぶ姿勢を継続できる人材の育成
- ・ 故郷を愛する心を持ち、グローバルな視野を持ちながら、地域社会で活躍できる人材の育成
- ・ 義務教育と高校教育をつなぐ基幹校として、長野市の未来を拓く教員の育成

1 長野市立中学校の基本的事項

- | | |
|----------------|---------------------|
| (1) 学校名 | 長野市立長野中学校（通称 市立長野中） |
| (2) 設置場所 | 市立長野高等学校に設置 |
| (3) 設置形態 | 併設型中高一貫教育校 |
| (4) 学校規模 | 1学年2学級 70名 |
| (5) 通学範囲 | 長野市内 |
| (6) 開校年度 | 平成29年4月 |
| (7) 高等学校の課程・学科 | 全日制課程 単位制総合学科 |

2 長野市立中高一貫教育校の6年間

(1) 発達段階に応じた教育活動



(2) 授業時間数

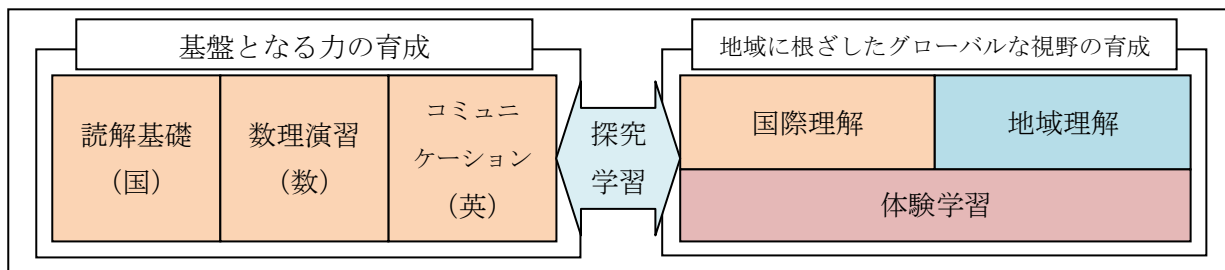
週 32 時間授業（標準 29 時間）を実施し、年間授業時数 1120 時間（標準 1015 時間）を設定します。

週あたり増えた 3 時間を学校独自教科（特にその他必要な教科）「探究基礎」とし、特色ある教育活動を行います。

(3) 特色ある教育活動

① 「(仮称) 翼プロジェクト」

「総合的な学習の時間」と「探究基礎」を活用し、地域に根ざしたグローバルな視野をもつための探究学習を行います。



② 習得・活用・探究の繰り返しによる学習

中高6年間の学習プログラム 外国語・理数教育の充実 アクティブ・ラーニング

③ 多様な形態や集団による教育活動

少人数学習 習熟度に応じた学習 テーマ別学習 中高合同の学校行事・部活動

3 適性検査

(1) 募集定員

70名(男女同数を基本とする)

(2) 志願資格

保護者とともに長野市内に居住し、小学校及び特別支援学校小学部を卒業する見込みの児童

(3) 入学者選抜方法

「適性検査・作文」「面接」「小学校から提出された報告書」を資料として、6年間の中高一貫で学ぶ意欲や適性があるかを総合的に判断し、入学者を決定します。

(4) 実施日

長野県立中学校と同日に実施する。

4 開校までのスケジュール(予定)

平成28年 1月 学校の概要説明会
3月 適性検査(試行)
5月 学校説明会
10月 入学者選抜学校説明会

県立中学と同日 { 入学志願者受付
適性検査・作文・面接の実施

平成29年 4月 (仮称)長野市立長野中学校開校
入学式

～ 長野市のキャリア教育の目標、方針と方策 ～

1 目標

自律心と創造性豊かな人間の育成

～ 自分を知り、自分をつくり、自分を活かすキャリア教育 ～

2 方針

- (1) 家庭・地域の教育力を生かし、地域社会全体で子どもを育てる。
 - ・ 人材・環境・文化等のすぐれた教育力を活用する。
 - ・ 地域社会でさまざまな体験をし、多くの人と触れ合うことを通して、学ぶ目的や働く意味、生き方等について考えさせる。
- (2) 発達段階に即し、幼保・小・中・高が一貫した理念で子どもを育てる。
- (3) 各学校では、既存の取組や教育活動をキャリア教育の視点から見直し、体系化する。

3 方策

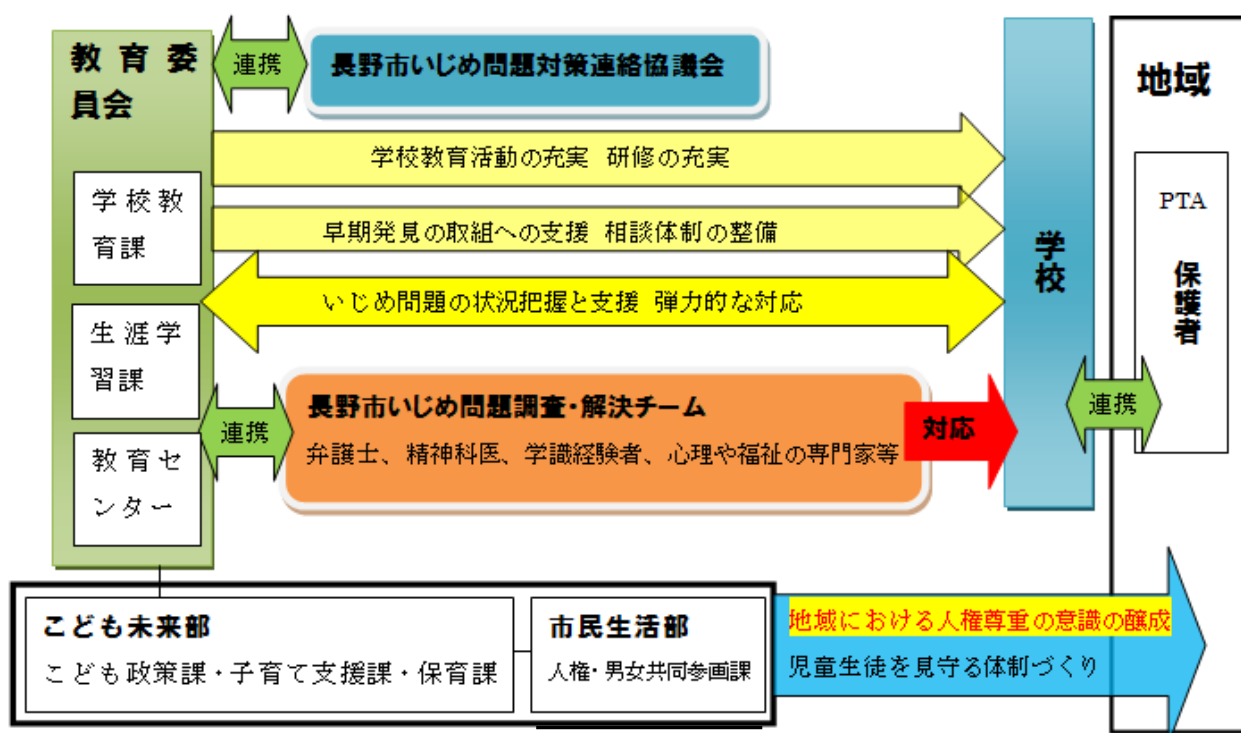
- (1) 家庭・地域の教育力を活用し、学校におけるキャリア教育を支援するための仕組み（プラットフォーム）を市教育委員会内におく。
- (2) 幼保・小・中・高の連携をキャリア教育の視点で更に推進する。
- (3) 各校でキャリア教育の目標、指導計画の見直しを行うとともに、職場体験学習等の事前・事後の指導を充実し、その振り返りを通して自分自身の成長や今後の課題に気づかせる。
- (4) また、教職員のキャリア教育に対する意識統一を図り、指導力向上のための研修を推進する。

資料9 長野市「いじめ防止等のための基本的な方針」【学校教育課】

1 いじめ防止等に対する考え方

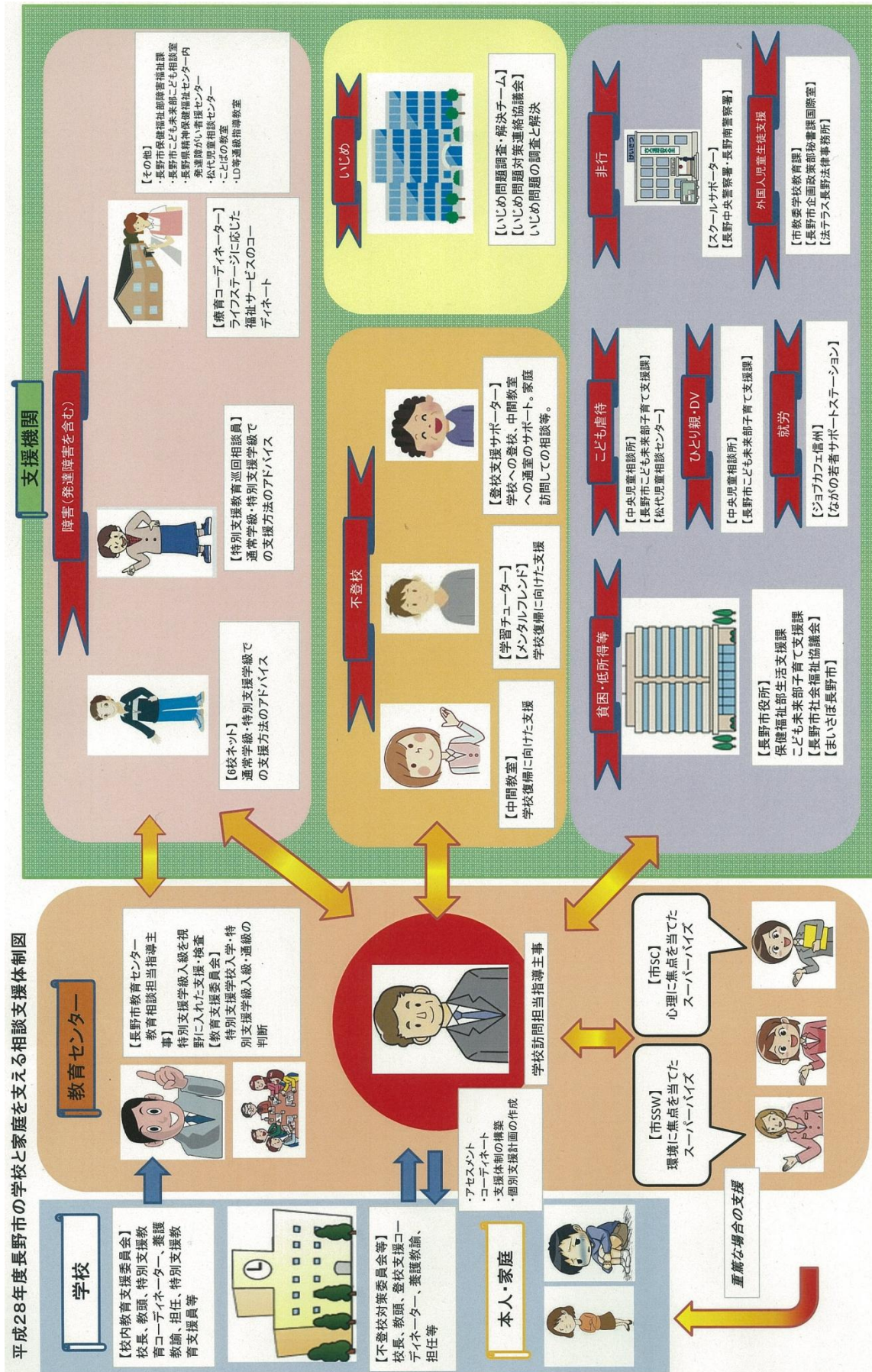
- ① いじめを許さない質の高い集団づくり
- ② いじめを見抜く教職員の力量の向上
- ③ 専門家と連携した組織的ないじめ対応の体制づくり
- ④ 保護者・地域・関係機関及び団体と連携した開かれた学校づくり

2 いじめ対応の体制図

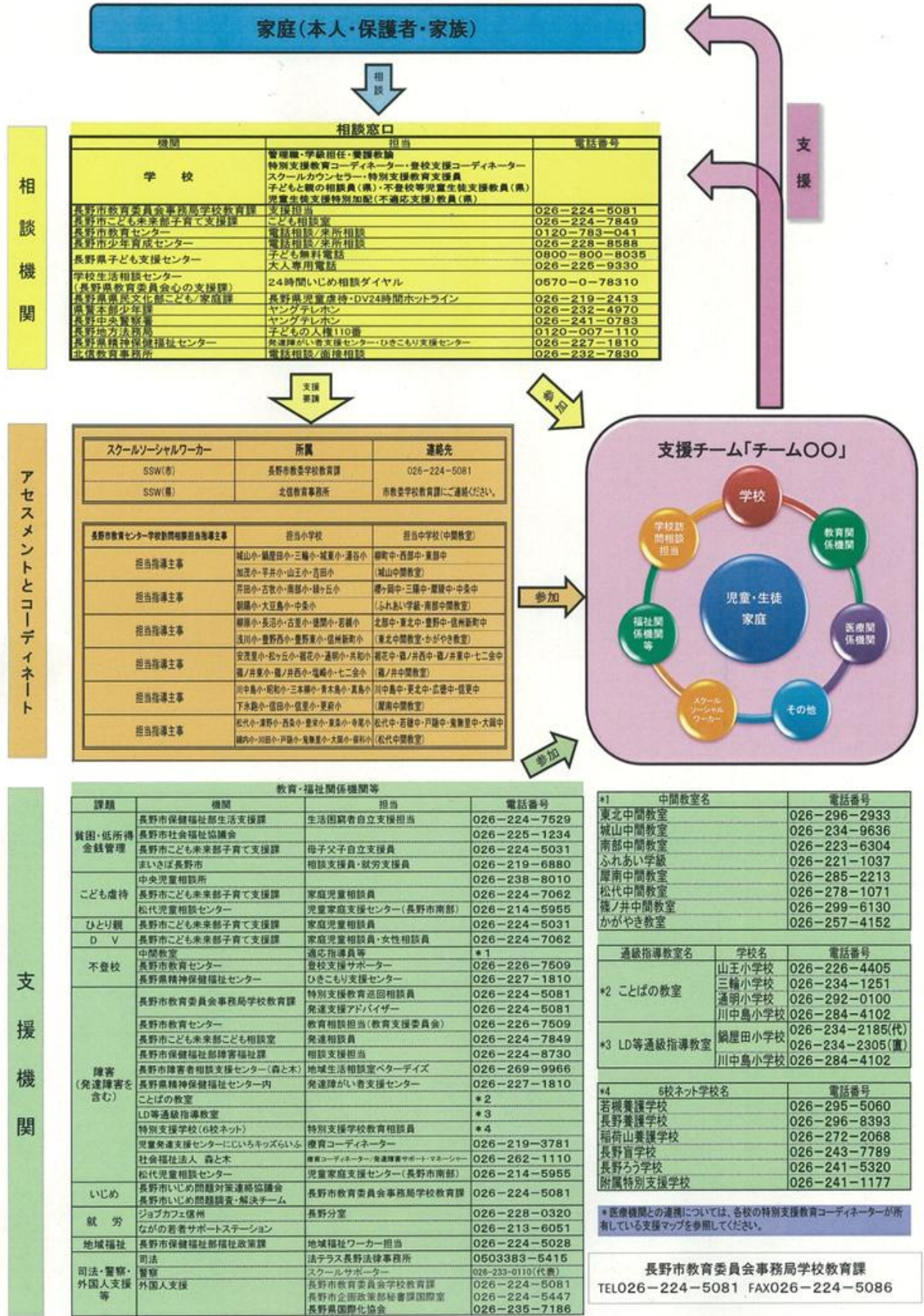


資料 10 長野市学校と家庭を支える相談支援体制【学校教育課】

1 相談支援体制図



2 相談機関等



資料 11 さんさんプラン【学校教育課】

長野市特別支援教育「さんさんプラン」

プラン1

特別な支援を必要とする児童生徒へ、

- ・担任等の**フットワーク**
- ・校内教職員・保護者の**チームワーク**
- ・関係機関等を含めた**ネットワーク**

により適切な指導及び必要な支援をおこなうことで、
長野市立小中学校における特別支援教育の充実を図る。

プラン2

適切な指導及び必要な支援を行うために、その子の教育的ニーズに添った**内容**(含む 支援の時間)・**人**・**場所**を用意する。

- ・その子の指導・支援に必要な内容と時間を用意する。
- ・その子への指導・支援に適切な人(支援者)を用意する。
- ・その子への指導・支援に適切な場所(含む教材・教具)を用意する。

資料 12 長野県中学生期のスポーツ指針

長野市教育委員会では、部活動は、中学生にとって心身ともに健やかに成長していく上で重要な活動と考え、「長野県中学生期のスポーツ活動指針」を尊重します。

各学校は平成 27 年度から、県の指針に基づいて部活動を実施しています。市教委は、各校の状況把握に努め、課題に対しては、県教育委員会スポーツ課、長野市校長会とともに見直しを図ります。

長野県中学生期のスポーツ活動指針概要

- (1) 部活動の運営体制と運営の充実
- (2) 部活動の指導の充実
- (3) 部活動の活動基準
- (4) 「部活動の延長として行われている社会教育活動」について
- (5) スポーツ活動運営委員会の機能の充実
- (6) 県教育委員会及び市町村教育委員会の役割
- (7) 地域の社会教育活動
- (8) 小学生期のスポーツ活動
- (9) 成長期にある中学生期のスポーツ活動を実施する上で留意すべき視点
- (10) 取組の状況把握と指針の見直し

資料 13 長野市コミュニティスクール事業【学校教育課】

1 国のコミュニティ・スクールと長野市コミュニティスクール

国のコミュニティ・スクールのイメージ

コミュニティ・スクールのイメージ

国のコミュニティ・スクールには、保護者や地域住民などから構成される「学校運営協議会」が設けられ、学校運営協議会が学校運営の基本方針を承認したり、教育活動などについて意見を述べたりすることを通じて、地域の皆さんの意見を学校運営に反映させる仕組みです。

長野市が参考とする信州型コミュニティスクールは、学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支えていく「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みです。

信州型（長野市）コミュニティスクールのイメージ

2 コミュニティスクール関係の補助金について

(1) 補助の仕組み（表1）

補助事業	補助金の種類	補助対象		
		運営委員会設置校		未設置校
		学校マイプラン コミュニティ枠対象校	学校マイプラン コミュニティ枠非対象校	
コミュニティ スクール	コミュニティスクール運営 委員会補助金	○	○	×
学校マイ プラン	学校マイプラン補助金 (一般枠)	○	○	○
	学校マイプラン補助金 (コミュニティ枠)	○	×	×

(2) コミュニティ枠の実践例

- ・ 花壇・畑の整備、校庭への遊具設置
- ・ CS 運営組織のウエア、交流スペース整備
- ・ 福祉施設等の生徒ボランティアのユニフォーム整備
- ・ 地域芸能学習のための教材整備
- ・ 環境美化活動のための機材整備

資料 14 長野市大人と子どもの心得八か条

子育ての出発点は家庭教育です。親が家庭生活を通して子どもとの信頼関係を築き、各年代にふさわしい発達を促すことで、子どもが一人前の社会人として育っていきます。家族が助け合い、支え合うことで、思いやりの心を育み、また、基本的な生活習慣を身につけさせるとともに、自律心の育成や心身の調和のとれた発達を促すなど、家庭が教育に果たす役割を明らかにします。
～長野市教育振興基本計画より～

市教育委員会は、「長野市教育振興基本計画」の中で家庭の教育力の向上を示しました。そこで、平成25年、長野市PTA連合会、長野市校長会、長野市教育委員会が連携し、共同事業として、「長野市大人と子どもの心得八か条」を作成しました。

この実践も、C学力を高めていくうえで、有効な取組と考えます。

長野市大人と子どもの心得 **八**か条

教育の原点は家庭

まずは親が家庭で真剣に取り組むことが必要ですが、さらに学校とも地域とも補い合い、子ども達が誇りと自信を持って世に出ていけるよう育てあげましょう。
長野市では大人が自ら手本を示し、家庭で学校で地域で子ども達を育む活動を実践します。

- 一、『おはよう』『おやすみなさい』
元気に笑顔で挨拶します
- 二、『ありがとう』『ごめんなさい』
気持ちを素直に伝えます
- 三、相手の立場に立って考えます
- 四、決まり約束を守ります
- 五、我慢する心を持ちます
- 六、年長者を敬い大事にします
- 七、すべての命を大切にします
- 八、スク出して夢に向かって努力します

毎月第3日曜日は
『長野市家庭の日』

家庭教育力向上運動

長野市PTA連合会・長野市校長会・長野市教育委員会



用語解説 (五十音順)

用語	解説
アプローチカリキュラム	就学前の幼児が、スムーズに小学校の生活や学習に適應できるようにするとともに、幼児期の学びや育ちを小学校教育につなげるためのカリキュラムのこと
ICT	Information and communication technology の略で、情報通信技術
生きる力	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識・技術を習得し、それらを活用して、自ら考え、判断し、表現することにより、さまざまな問題に積極的に対応し、解決する力 ・自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性 ・たくましく生きるための健康や体力などを総称したもの
いじめ防止基本方針	平成25年6月に公布された「いじめ防止対策推進法」に基づき、本市では平成27年4月に策定し、法の規定を踏まえた組織の設置、重大事態への対処法、必要な措置等を定めた本市の方針
一校一國運動	市内の小・中学校が相手国を決め、その国の文化や歴史の学習と交流を通して国際理解や友好を深めようとするために長野オリンピックの開催をきっかけに始まった運動
OJT型(研修)	職場(学校)内で、具体的な仕事を通じて、仕事に必要な知識・技能・技術・態度等を意図的、計画的、継続的に指導(研修)を行い、職場(学校)全体の力量を高める活動
おひざで絵本事業	地域に住むすべての赤ちゃんと保護者に、絵本と触れ合うことの大切さや楽しさを伝えながら絵本を手渡す、長野市版のブックスタート
課題探究型学習	子どもたちが、自ら設定した課題を主体的に解決していく学習
学校マイプラン推進事業	学校ごとの理念に基づいた特色ある教育方針に沿って、創意工夫を活かして実施される特色ある教育活動を推進する事業
学習チューター	信州大学と清泉女学院大学の学生希望者が、各学校に入り、学習支援や児童生徒の活動支援を行う無報酬の活動
カリキュラム	学校の教育目標を達成するために、児童・生徒の発達段階や学習能力に応じて、順序だてて編成した教育内容の計画、教育課程
キャリア教育	一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方の実現を促す教育
しなのき児童生徒意識アンケート(STSアンケート)	長野市が独自に開発したアンケートであり、自分の存在や行動が級友に承認されているか、不適応感を感じ、いじめ・冷やかし等を受けているかを調査し、指導に活かすもの
クロス集計	文部科学省による全国学力・学習状況調査の質問紙調査と教科に関する調査を同時に集計
高1クライシス	中退や不登校の約半数が、高校1年生に集中している状況
構成的グループエンカウンター	リーダーの指示した課題をグループで行い、そのときの気持ちを素直に語り合い、それを互いに認め合う体験

生徒会サミット	各中学校生徒会の代表者が集まり、自ら企画・運営を行い、交流し、情報交換する場
さんさんプラン	担任の「フットワーク」、校内の教職員の「チームワーク」、関係機関の連携を含めた「ネットワーク」の3つにより、障害のある児童生徒の教育的ニーズを把握し、適切な指導と必要な支援を行うための事業
質問紙調査	文部科学省が実施する全国学力・学習状況調査のうち、児童生徒の学習の状況を調査するもの
小1プロブレム	小学校に入学したばかりの1年生が、「集団行動がとれない」「授業中に座ってられない」「落ち着いて先生の話聞くことができない」など学校生活に馴染めない状態が数ヶ月続くこと
支会（7支会）	長野市を7地域に分割して運営する組織
姉妹都市・友好都市	姉妹都市：アメリカ合衆国クリアウォーター市 昭和34年姉妹都市提携 友好都市：中華人民共和国石家庄市 昭和56年友好都市提携
スクールソーシャルワーカー	児童相談所を始めとした行政機関などの外部機関と小中学校との連携環境の構築、あるいは保護者の経済状況や就労状況などの生活面で、特に重大な困難や福祉的援助の必要性が認められる家庭への、社会保障・生活保護提供などを含めた自立支援相談を職務とする社会福祉士または精神保健福祉士。
スタートカリキュラム	小学校へ入学した子どもが、幼稚園・保育所・認定子ども園などの遊びや生活を通じた学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出していくためのカリキュラム
ソーシャルスキルトレーニング	対人関係や集団行動を上手に営んでいくための技能を獲得するための練習
長野市学校安全・安心ネット	登録者に不審者情報や危害獣等の緊急情報を教育委員会から配信したり、学校行事や参観日、インフルエンザによる授業短縮、学級閉鎖等の情報を学校から配信したりするシステム
対人関係ゲーム	子どもたちが分け隔てなくコミュニケーションをとる場面を設定する集団ゲーム
学力向上フォーラム	長野市の教職員が、学力向上に向けた学校づくりや授業改善、家庭学習への取組等の具体について意見交換をする機会
中1ギャップ	中学校に入学したときに、学習内容や生活リズムの変化に馴染むことができず、いじめが増加したり不登校になったりする現象
中間教室	不登校状態が続き、自分の意志で通室できる子どもを対象に、情緒の安定、集団生活への適応、基礎学力の補充、基本的な生活習慣の改善のため、適応指導員が相談・適応指導を行う、市内に8教室設置
登校支援コーディネーター	不登校対策の推進役として、不登校や学級不適應に悩む児童生徒やその保護者への支援、実態把握と校内の情報共有、教育相談関係機関との連携や校内チーム支援体制の充実を図っている各学校に在籍している教員
登校支援サポーター（家庭訪問相談員）	家庭や学校を訪問し、不登校・いじめ及び各種の悩みを抱える児童・生徒や保護者に寄り添い、心の安定を図ると共に、登校ができるように支援する有償ボランティア

長野市 コミュニティスクール	学校と保護者や地域住民が運営委員会を組織し、子どもたちの育ちについて地域と学校がともに話し合い、それぞれの役割を明らかにしながら、豊かな成長を支えていく「地域とともにある学校づくり」を進める仕組み
発達支援あんしんネット トワーク事業	発達について、専門的な支援が必要な子どもや、保護者に対して、関係機関との連携・協力を図り、適切な支援を行うことを目的としたもので「にこにこ園訪問」「地域発達支援会議」の二つの事業からなる
放課後子ども 総合プラン	地域社会の中で、放課後や週末などに全ての児童が、安全・安心に過ごし、多様な体験及び活動を行うことができるよう、放課後児童健全育成事業及び地域住民等の参画を得て、放課後等に学習や体験・交流活動などを行う事業に取り組む計画
ミドルリーダー	学校をマネジメントしていく立場にある中堅教員
メンタルフレンド	中間教室において、適応指導員の指導のもと、不登校児童・生徒への援助、学習支援活動を行う有償ボランティア
ユニバーサルデザイン	障害の有無にかかわらず、すべての子どもたちが、参加しやすく、分かりやすい対策を行った授業や教室環境
リテラシー	自ら必要な情報を集め、選択・活用し、課題を解決していく力 特定の分野の知識や、それを活用する能力



「しなのきプラン29」は、長野市教育委員会事務局学校教育課のHPに掲載してあります。
(長野市HP⇒教育委員会⇒学校教育課⇒「しなのきプラン29」)

長野市教育委員会事務局学校教育課 長野市大字鶴賀緑町 1613 番地

メール：gakukyou@city.nagano.lg.jp